永遠の真理

ETERNAL TRUTH

2015年 9月

「購いの計画（Ⅱ）」「恩恵期間の終了に関連した出来事」「後の雨のために準備する」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「贖いの計画（II）- 着せられた義と与えられた義 -」 4

聖書の教え

朝のマナ

「恩恵期間の終了に関連した出来事」 9

われらの主よ、きたりませ

現代の真理

「後の雨のために準備する」 40

三重のメッセージ - もう一人の御使のメッセージ

力を得るための食事

「きゅうりのキムチ（オイキムチ）」 50

お話コーナー

「先になにがあるかを見る」 52

教会

【正丸教会】

〒368-0071　埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465
FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015　高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261　沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：http://www.4angels.jp
メール：support@4angels.jp

発行日　2015 年 8 月 31 日
編集＆発行　SDA 改革運動日本ミッション
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: HighRes on front cover;
HighRes on pages 8, 52

Printed in Japan

信仰による義認

主はその大いなる憐れみのうちに、ワゴナー長老とジョーンズ長老を通して、ご自分の民に最も尊いメッセージを送ってくださった。このメッセージは世の前に上げられた救い主、全世界の罪のための犠牲をもっと顕著に提示するためのものであった。それは保証人（担保）を信じる信仰を通しての義認を提示し、神のすべての戒めへの従順のうちに表されているキリストの義を受けるように民を招いた。多くの人々はイエスを見失っていた。……すべての力がこのお方の御手のうちに与えられている。それはこのお方が豊かな賜物を人々に施し、ご自身の義という値のつけられないほど高価な賜物を無力な人間に与えることがおできになるためである。これこそ、神が世に与えるようにと命じておられるメッセージである。それは第三天使のメッセージであり、大声で宣布され、大規模なこのお方の御霊の注ぎが伴うべきメッセージである。（牧師への証 91, 92）

数名の人がわたしに手紙をよこし、信仰による義認のメッセージは、第三天使のメッセージかと問うてきた。そしてわたしは答えた、「それこそ、まさに第三天使のメッセージである」と。（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 372）

信仰による義認とは何か。それは人の栄光をちりに伏させ、人が自分のために自分の力ではできないことを、人のためになしてくださる神のみわざである。自分自身が無であることを人が知るとき、キリストの義の衣で覆われる準備ができる。（信仰によってわたしは生きる 111）

わたしたちの天の希望は、キリストだけに集中されなければならない。なぜなら、このお方がわたしたちの身代わりであり、担保だからである。（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 363）

聖書の教えIX

7章　贖いの計画（II）

B. 着せられた義と与えられた義

義認

信仰によって、罪人がありのままの姿でキリストの許へ行き、自分の罪を告白するとき、キリストの生涯の功績が彼らのものだと認められ、彼らは、キリストの血の功績を通して無償で許されます（ヨハネ第一 1:9; ローマ 3:23–26, 31; 5:1, 9, 10, 16–19; ガラテヤ 2:16; 3:24; コリント第二 5:19, 21）。

「自分自身の救いに対して人ができることは、ただ次の招きを受け入れることである『だれでも渇いている者は、無償で命の水を飲むがよい』。人が犯す罪で、カルバリーが十分でないほどのものはない。こうして、十字架は、熱心な訴えをもって、絶えず罪人に徹底的な罪の償いを提供しているのである。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1071）

「神が罪人を許されるとき、罪人が受けるべき刑罰を免じ、あたかも罪を犯した事がないかのように扱われるとき、このお方は彼をご自分の恩寵のうちに受け入れ、キリストの義の功績を通して彼を義とされる。罪人は神のいとし子、すなわち有罪の世の罪のために犠牲となられたお方を通してなされた贖罪を信じる信仰を通してのみ義と認められることができる。だれも自分自身の何かの行いによって義認されることはできない。彼が罪意識から、律法の有罪宣告から、不法の刑罰から救出されることができるのは、ただキリストの苦難、死、そして復活の徳によってのみである。義認を得ることができる唯一の条件は信仰であり、信仰には信じることだけでなく信頼が含まれている。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 389）

「信仰は神が罪人に許しを約束するのにふさわしいと思われた条件である。それは信仰に救いを得るような徳があるからではなく、信仰がキリストの功績、すなわち罪のために備えられた治療法つかむことができるからである。信仰はキリストの完全な従順を罪人の不法と不足の代わりに提示することができる。罪人が

キリストを自分の個人的な救い主だと信じるとき、そのとき、ご自分のたがうことのない約束に従って、神は彼の罪を許し、無償で彼を義と認められる。悔い改めた魂は、自分の義認が、自分の身代わりであり、保証であられるキリストが自分のために死なれ、自分の贖罪であり義であられるがゆえにもたらされたのであることを自覚する。」(ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 366, 367)

「真の信仰と真の祈り―それらは、なんと強いことであろう！それらは人間の嘆願が、無限の愛のお方の力をつかむ日本の腕のようなものである。」(福音宣伝者 259)

「同じ信仰によって、われわれも霊的ないやしを受けられる。罪のために、われわれは神のいのちから切り離された。われらの魂は麻痺している。ちょうどあの不具の男がひとりで歩くことができなかったように、われわれもひとりではきよい生活を送ることができない。自分の無力をみとめている人、また神に一致するような霊的生活をあこがれ求めている人が多い。彼らはそうした生活を求めてむなしい努力をしている。そして絶望のうちに、『わたしは、なんというみじめな人間なのだろう。だれが、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか』と叫ぶ (ローマ 7:24)。こうした絶望のうちにもがいている人々は、上を見あげるがよい。救い主は、ご自分の血であがなわれた者をのぞきこんで、言い表わしようのないやさしさとあわれみとをもって、『なおりたいのか』と言われる。主はあなたに、健康と平安のうちに立ちあがりなさいとお命じになる。いやされたと感じるのを待ってはならない。キリストのみことばを信じなさい。そうすればみことばは実現する。あなたの意思をキリストの側におきなさい。キリストに仕えようと決心なさい。そうすれば、みことばを行なうことによって、あなたは力を受ける。どんなに悪い習慣であろうと、長い間の放縦によって魂と肉体とをしばりつけてきた支配的な情欲から、キリストはわれわれを救うことがおできになり、また救おうと望んでおられる。彼は『自分の罪過と罪とによって死んでいた者』にいのちをお与えになる (エペソ 2:1)。キリストは、弱さと不幸と罪の鎖につながれているとりこを解放される。」(各時代の希望上巻 245, 246)

「〔ローマ 3:25, 26 引用〕。この憐れみと善は、まったく受ける資格のないものである。キリストの恵みは罪人の側の功績や権利なしに、無償で彼を義と認める。義認は、十分にして完全な罪の許しである。罪人が信仰によってキリストを受け入れた瞬間、その瞬間に彼は許される。キリストの義が彼に着せられ、彼

はもはや神の許しの恵みを疑わないのである。」（キリストを映して 78）

「信仰による義認とは何か。それは人間の栄光をちりに伏させ、人が自分の力では自分のためになすことのできないことを人のためになさる神のみわざである。」（牧師への証 456）

「義認とは魂を破滅から救うこと、すなわち彼が聖化を、ひいては聖化を通して天の命を得ることができることを意味する。義認は死んだわざから清められた良心が、聖歌という祝福を受けることができるところにおかれることを意味する。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ［E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］908）

「キリストは、わたしたちのために逃れる道を備えてくださった。キリストは、この地上でわたしたちが会わねばならない試練と誘惑のまっただ中で生活し、罪のない生涯をお送りになった。そして、わたしたちのために死に、今やわたしたちの罪を取り除いて、ご自分の義を与えようとしておいでになる。もし自分をキリストにささげ、キリストを自分の救い主として受け入れるならば、その生涯はこれまでいかに罪深いものであっても、このお方のゆえに義とみなされるのである。キリストの品性があなたの品性の代りとなり、神の前に全然罪を犯したことのないものとして受け入れられるのである。」（キリストへの道 82）

「生きた信仰によって、神への熱烈な祈りにより、またイエスの功績に頼って、わたしたちはこのお方の義で覆われる。そしてわたしたちは救われるのである。」（信仰と行い 71）

聖化

義認はキリストが聖所で奉仕しておられるかぎり、だれでも手に入れることができますが、聖化の働き、すなわち生涯の働きは、人が義認されてから始まります。彼らの同意と協力があるとき、信徒は聖霊によって、真理を通して、すべての真理に導き入れられるに従って聖化されます（テサロニケ第一 4:3; テサロニケ第二 2:13; ヨハネ 16:13; 17:17（cf. 詩篇 119:142）；ヨハネ 8:32; コリント第一 15:31（cf. ローマ 6:6）；ローマ 6:18, 22）。聖化を通して男女に、自分の生涯において罪に対する完全な勝利を与えることが神のご計画です（ヨハネ第一 1:9; ローマ 6:14; エペソ 4:23, 24; ヘブル 12:14）。

「魂の聖化は、このお方〔キリスト〕を信仰によって、恵みとまことに満ちた神のひとり子として眺め続けることを通して、成し遂げられる。真理の力は心と品

性を変えるのである。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6, p. 1117）

「聖化は一瞬、一時間、一日の働きではない。それは恵みにおける継続的な成長である。わたしたちはある日次の自分の争闘がどれほど強いものとなるかを知らない。サタンは生きており、活動的である。そして毎日、わたしたちは彼に抵抗するための助けと力を求めて真剣に神に叫ぶ必要がある。サタンが統治している限り、わたしたちには征服すべき自我と、克服すべきからみつく罪があるのであり、立ち止まる場所はないのである。わたしたちが完全に到達したと言える場所はない。」（同上 7 巻 947）

「真理の一部を自分たちの背後に投げ捨てる人々に聖書の聖化はない。」（同上）

「『もし、わたしたちが彼の戒めを守るならば、それによって彼を知っていることを悟るのである。「彼を知っている」と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにない。しかし、彼の御言を守る者があれば、その人のうちに、神の愛が真に全うされるのである。それによって、わたしたちが彼にあることを知るのである』（ヨハネ第一 2:3–5）。ここにこそ、唯一真の聖書の聖化がある。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1875 年 7 月 22 日）

「聖化は神のみ旨への従順のうちにのみ得られるのである。」（信仰と行い 29）

「わたしたちが不可能なことを扱っているのではないことを神に感謝する。わたしたちは聖化をわがものと主張することができる。わたしたちは神の恩寵を享受することができる。わたしたちはキリストと神がわたしたちをどのようにお考えになるかを案じるべきではない。そうではなく神がキリスト、すなわちわたしたちの身代わりをどのようにお考えになるかを考えるべきである。あなたは愛されたお方のうちに受け入れられるのである。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 2 巻 32, 33）

「聖化とは、習慣的な神との交わりを意味する。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]7 巻 908）

「これが真の清め（聖化）である。というのは、清めとは神のみこころに完全に従いながら、日ごとの務めを快活に行なうことであるからである」（キリストの実物教訓 336）

「わたしたちの聖化は、御父、御子、そして聖霊の働きである。それは、聖なる交わりにおいて自らを神と結びつけ、神と御子と聖霊と共に立つ人々結ばれた契約の成就である。あなたは新たに生まれたであろうか。あなたはキリスト・イ

エスにあって新しくされたであろうか。であれば、あなたのために働いておられる天の偉大なる三人の権威者と協力しなさい。」

「真の聖化は、信徒をキリストに結合させ、互いに優しい同情という絆で結びつける。この結合によってキリストのような愛という豊かな流れがたえず心のうちに流れ込み、今度はそれが互いへの愛のうちに再び流れ出るのである。」（同上 5 巻 1141）

「聖化は信仰の実であり、その再生の力は魂をキリストのみかたちへ変える。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1883 年 6 月 7 日）

人々には自らを再生させる力はありません（ヨブ 14:4）。人々が義認される（許される）ことができるのは、ただキリストの功績と犠牲を信じる彼らの信仰を通してです。そして、彼らが聖化されること（聖なる者とされる。もしくは罪から自由にされること）ができるのは、ただ彼らのうちになされる聖霊の働きを通してです（テトス 3:5）。この方法により、キリストの思いもしくはご品性が魂のうちに植えつけられるのです。義認と聖化は、互いに働いとき、再生、もしくは改心―キリストがわたしたちを罪から救われる過程―と呼ぶことができます（マタイ 1:21（ヨハネ 8:11 参照）；ペテロ第一 1:22, 23; ローマ 12:2; エペソ 4:22–25; コリント第一 6:11; コリント第二 7:1; ヘブル 12:14）。

わたしたちは天のみ父の息子娘となるのです（ヨハネ第一 3:1）—

(a) 養子縁組によって：ローマ 8:14–17; ガラテヤ 4:4–6; エペソ 1:3–5, また

(b) 霊的な誕生（再生）：ヨハネ 1:12, 13; ヘブル 2:11; ヨハネ 3:3, 6, 7; ヤコブ 1:18; ヨハネ第一 3:9; 5:18; ローマ 8:14.

われらの主よ、きたりませ

Maranatha

9月「恩恵期間の終了に関連した出来事」

法廷や議会に立つ

「わたしはまた王たちの前に、あなたのあかしを語って恥じることはありません。」（詩篇 119:46）

大いなる終わりのときの働きにおいて、わたしたちはどう対処してよいか分からないほどの困難に会う。しかし、天からの偉大な三重の力が働いてることと、神のみ手が運命を握っていること、そして神はご自分の目的を成就されるということを忘れないようにしよう。（伝道 65）

わたしたちはこのお方のみ名のために、議会や幾千という人々の前に引き出され、一人びとりが自分の信仰の理由を述べなければならないときが来る。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1888 年 12 月 18 日）

わたしたちのとる真理のどの立場でも、最高の知性を持っている人々の批判を受けるようになる。世界中の高い地位にある偉大な人々が真理と接することになる。それゆえ、わたしたちがとる一つ一つの立場は聖書によって批判的に調べられ、テストされる。今、わたしたちは人目につかないように見える。しかしこれはいつまでも続くわけではない。運動はわたしたちを前面に押し出すよう働いている。そして、もし真理についてわたしたちの見解が、歴史家や世界の偉大な人々に酷評されるようなものであれば、そうされるのである。（伝道 69）

主イエスは彼らの敵が否定も反対もできない舌と知恵を弟子たちにお与えになる。議論によってはサタンの惑わしに打ち勝つことのできなかった者が、学者と思われている人々を困惑させるような確固とした証を担うようになる。み言葉が真理への改心へと導くような説得力と知恵をもって無学な者の唇からでてくる。幾千もの人々が彼らの証の下で改心する。

なぜ無学な人が、学識のある人の持たないような力を持つのであろうか。学識のある者が真理から顔を背けている間に、無学な者は、キリストを信じる信仰を通して、純潔で明白な真理の大気の中に入る。貧しい人は、キリストの証人である。彼は歴史や、いわゆる高等科学と呼ばれるようなものに訴えることはできないが、神のみ言葉から力強い証拠を集める。彼が聖霊の感化のもとに語る真理は、非常に純潔で、注目に値し、非常に明白な力がそれに伴っているので、彼の証は反駁することができない。（原稿 53、1905 年）

地上の偉大な人々の前での証

「またあなたがたは、わたしのために長官たちや王たちの前に引き出されるであろう。それは、彼らと異邦人とに対してあかしをするためである。」（マタイ 10:18）

神の民が地上の支配者の前で、証をするために呼びだされるその時はそれほど先のことではない。わたしたちが歴史の中での大きな危機に向かって、どれほど早く進んでいるかに気づいている者は二十人に一人もいない。……むなしいことやくだらないこと、また重要でない事柄に思いを奪われる時間はないのである。（レビュー・アンド・ヘラルド 1892 年 4 月 26 日）

王たち支配者たち、そして偉大な人々はあなたに敵意を抱いている人々の報告書を通してあなたの証を聞く。そしてあなたの信仰と品性が彼らの前で誤り伝えられる。しかし偽って告発される者には自身のために告発者の面前で、申し開きをする機会がある。彼らには地上の偉大な人々と呼ばれる人々の前に光をもたらす特権がある。そしてもしあなたが聖書を研究しており、あなたのうちにある望みについて説明を求める人には、だれにでも柔和と畏れをもって答える用意をしているなら、あなたの敵は、あなたの知恵に反駁することはできないであろう。

神のみ言葉の研究を通して、あなたには最高の知的能力を獲得する機会がある。しかし、もしあなたが怠惰で、真理の鉱脈を深く掘ることをしないなら、まもなく、わたしたちにふりかかる危機に対して備えをしていないことになる。ああ、一瞬一瞬が金のように貴重であることに、あなたが気づいてくれると良いのに。もしもあなたが神の口から出る一つ一つの言葉で生きているなら、準備のできていない者とはみなされないであろう。（同上）

あなたは、真理のあかしをするために、自分がどこに呼び出されるかを知らない。多くの人が国会に立たなければならない。ある者は王や地上の学識のある人々の前に立って、自分の信仰のために答えなければならない。真理をただ表面的に理解している人は聖書をはっきりと、要点を追って説明し、自分の信仰に対してしっかりとした根拠を示すことができない。こう言う人は混乱してしまい、恥じるところのない働き人とはならない。だれも、自分は講壇で説教をしないのだから、研究する必要はないと考えてはならない。あなたは神があなたに何を要求なさるかを知らないのである。（クリスチャン教育の基礎 217）

あなたの神に会う備えをせよ

「それゆえイスラエルよ、わたしはこのようにあなたに行う。わたしはこれを行うゆえ、イスラエルよ、あなたの神に会う備えをせよ。」（アモス 4:12）

わたしは、また、悩みの時に、聖所に大祭司がおられないで神のみ前に生きるためにはどのような状態でなければならないかを悟っていない人が多くあるのを見た。生ける神の印を受け、悩みの時に保護される人々は、イエスのかたちを完全に反映していなければならない。（初代文集 149）

彼らの着物は汚れがなく、彼らの品性は、血をそそがれて罪から清まっていなければならない。キリストの恵みと、彼ら自身の熱心な努力とによって、彼らは悪との戦いの勝利者とならなければならない。天で調査審判が行なわれ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行なわれなければならない。（各時代の大争闘下巻 141）

わたしは、多くの人々が、必要な準備をおろそかにしていながら、主の日に立ち得て神のみ前に生きるにふさわしいものとなるために、「慰めの時」と「春の雨」(後の雨) とを待っているのを見た。ああ、わたしは、なんと多くの人々が、悩みの時に、避け所がないのを見たことだろう。彼らは必要な準備を怠った。だから、彼らは、聖なる神の前に生きるのに適したものと彼らをするためにすべての者が持たなければならない慰めを、受けることができなかった。（初代文集 149）

預言者に切り刻まれることを拒み、すべての真理に従って魂を清めることをしない者、そして、自分たちは、実際よりは、はるかによい状態にあると思い込んでいる人々は、災害がくだるときになって、自分たちが建物に合わせて切り刻まれ、四角にされなければならないことを悟るのである。……

すべての罪、誇り、利己心、世を愛する心、すべての悪い言葉や行為に勝利するのでなければ、だれひとりとして、「慰め」にあずかることができないのを、わたしは見た。であるから、われわれは、ますます主に近づき、主の日の戦いに立ち得るために必要な準備をするように、熱心に求めなければならない。神は聖であられて、神のみ前に住むことができる者は聖なる者だけであることを、すべての者が覚えているようにしよう。（同上 149, 150）

天来の助けの約束

「彼らがあなたがたを引き渡したとき、何をどう言おうかと心配しないがよい。言うべきことは、その時に授けられるからである。」（マタイ 10:19）

キリストの僕は自分の信仰を調べられるために引き出されたとき、定まった言葉を用意しておく必要はない。彼らは日々心の中に尊い神のみ言葉の真理をたくわえ、キリストの教えを食し、祈りによって信仰を強くして準備しなければならない。そうすれば調べられるために連れてこられた時、聖書が特別に必要な真理をわたしたちの記憶によみがえらせる。それは聞く人たちの心の底にまでとどく。神は、勤勉に聖書を研究して得た知識を、それを必要とする時に、記憶によみがえらせて下さる。（安息日学校への勧告 41）

あなたは、今、悩みの時の準備ができているべきである。今、自分の足が永遠の岩の上に根ざしているかどうかを知るべきである。あなたは個人的な経験をし、自分の光のために他の人に頼ってはならない。試練に会うとき、地上の友が自分の側にいないとき、あなたは自分が一人ではないということをどうやって知るのだろうか。あなたはそのとき、キリストが自分の支えであると気づくことができるであろうか。「見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいるのである」とのみ約束を思い起こすことができるであろうか。あなたの周りであなたの滅亡を見守る目に見えない者たちがいるであろう。サタンと彼の代理人たちは、神と神の真理に対するあなたの不動の信頼を揺るがせようとあらゆる方法を探っている。しかし、もしあなたが、神の栄光にだけ目を向けているなら、神の真理をどのようにあかししようかと考える必要はない。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1892 年 4 月 26 日）

若い男女たちよ、あなたがたはキリストのうちにある男女の完全な姿へと成長し続けているであろうか。そうであるなら、危機が来るとき、あなたは自分の力の源であられるお方から離れることはない。もしわたしたちがテストの時に堅く立ちたいなら、今、この平和の時に神の事柄における生きた経験を得つづけていなければならない。わたしたちは何が神の御霊の深い働きであるかを理解するために、今学ばなければならない。キリストがわたしたちのすべてのすべてであり、アルパとオメガ、初めと最後、始まりであり終わりにならなければならない。（同上 1892 年 5 月 3 日）

ペンテコステが再びおとずれる！

「わたしは彼らおよびわが山の周囲の所々を祝福し、季節にしたがって雨を降らす。これは祝福の雨となる。」（エゼキエル 34:26）

種まき時と、収穫のころに東方の国々に降る前の雨、後の雨という比喩を用いて、ヘブルの預言者たちは、神の教会に異常なほど豊かに霊的恵みがさずけられることを預言した。使徒の時代の聖霊の降下は前の雨、またはさきの雨の始まりであった。そして、その結果はすばらしかった。……

地上の収穫が終わりに近くなると、教会を人の子イエスの来臨に備えるために、霊的な恵みが特別に与えられると約束されている。この聖霊の降下は後の雨にたとえられている。（患難から栄光へ上巻 51）

福音の大いなる働きは、その開始を示した神の力のあらわれより劣るもので終わることはない。福音の開始にあたって秋の雨（前の雨）となって成就した預言は、その終局において、春の雨（後の雨）となって再び成就するのである。……

神のしもべたちは、きよい献身の喜びに顔を輝かせ、天からの使命を伝えるために、ここかしこと奔走する。全世界の幾千の声によって、警告が発せられる。奇跡が行なわれ、病人はいやされ、しるしと不思議が信じる者に伴う。サタンもまた、偽りの不思議を行ない、人々の前で天から火を降らすことさえする（黙示録 13:13 参照）。こうして、地上の住民は、立場を明らかにしなければならなくなる。

使命は、議論によるよりも、神の霊の深い感動によって伝えられる。論拠はすでに示された。種はまかれた。そして今、それが生えて、実を結ぶのである。……今、光は至るところにゆきわたり、真理は明らかにされ、神の忠実な子供たちは、彼らを束縛していたかせを絶ち切るのである。家族関係、教会関係は、もはや彼らを止める力がない。真理は他の何物よりも尊いのである。諸勢力が力を結集して真理に反対するにもかかわらず、多くの者が主の側に立つのである。（各時代の大争闘下巻 382, 383）

ハルマゲドンの戦いに入る

「彼らは小羊に戦いをいどんでくるが、小羊は、主の主、王の王であるから、彼らにうち勝つ。また、小羊と共にいる召された、選ばれた、忠実な者たちも、勝利を得る。」（黙示録 17:14）

わたしたちは第七の鉢を空中に傾ける災いを学ぶ必要がある。悪の勢力が争闘せずに戦いを放棄することはない。しかしハルマゲドンの戦いではみ摂理が働く。黙示録 18 章の天使によって地が明るくされるとき、宗教的な要素、すなわち善と悪は眠りから目覚め、生ける神の軍勢は戦いに出る。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘｰ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]7 巻 983）

四人の力強いみ使いは神のしもべたちが額に印を押されるまでは、地の勢力を引き止めている。世界の国々はしきりに戦いをしたがるが、彼らは天使に抑制されている。この抑える力が取り除かれるとき困難と苦悩の時が来る。命を取る戦争の道具が発明される。命という積み荷を乗せた船が深い海に沈む。真理の御霊をもっていない者は皆、サタンの代理人たちの指導の下に結集する。しかし彼らはハルマゲドンの大きな戦いの時が来るまで抑制されている。（同上 967）

あらゆる種類の悪が突然激しく活動する。悪天使は悪人と力を合せて、絶えず戦いに従事し、最高の欺瞞と戦いの方法において経験をつんできた。そして、彼らは何世紀にもわたって、力をつけてきているので死にもの狂いの戦いをしないで最後の大争闘を放棄することはない。全世界は問題のいずれかの側につく。ハルマゲドンの戦いが開始される。そしてその日、わたしたちは誰も眠っているのを見られてはならない。わたしたちははっきりと目をさまし、賢い乙女たちのように自分の器に油を満たして明かりをともしていなければならない。……

聖霊の力がわたしたちにくだり、主の万軍の指揮官であられるお方がその戦いの指揮をするために、天の天使たちの先頭に立たれる。わたしたちの前途にある荘厳な出来事が起こらなければならない。ラッパが次々と吹き鳴らされ鉢が次々と地の住民の上に注がれなければならない。驚くほど重大な光景がわたしたちの前にある。（同上 982）

将来の出来事は次々と起こる

「しかし兄弟たちよ。あなたがたは暗やみの中にいないのだから、その日が、盗人のようにあなたがたを不意に襲うことはないであろう。」（テサロニケ第一 5:4）

すべての者の運命が、救いかまたは滅びかに決定されるまで、イエスは至聖所から出られないこと、また、イエスが至聖所における働きを終了し、彼の祭司の服を脱いで、報復の衣をまとわれるまでは、神の怒りが下らないことを、わたしは見た。そのときイエスは天父と人間との間から退かれる。そして神は、沈黙を破って、ご自分の真理を拒否した人々に神の怒りを注がれるのである。国々の怒り、神の怒り、そして死者を裁くときなどは、全く別の事件であって、相次いで起こるものであり、また、ミカエルは立ち上がっておらず、かつてなかったほどの悩みの時はまだ始まっていないことを、わたしは見た。今、国々は怒りつつあるが、われわれの大祭司が、聖所における働きを終えられて立ち上がり、報復の衣をまとわれるときに、いよいよ最後の七つの災いが注がれるのである。

四人の御使が、聖所におけるイエスの働きが終わるまで、地の四方の風を引き止めており、その後で、七つの災いがくだるのを、わたしは見た。これらの災いは、悪人たちに、義人たちに対する激しい怒りを抱かせた。彼らは、われわれが彼らの上に神の刑罰をもたらしたのであって、われわれを地上から除けば災いがやむと考えた。聖徒たちを殺す布告が発せられた。そのために聖徒たちは、昼も夜も救いを叫び求めた。これがヤコブの悩みの時であった。そのとき聖徒たちは、みな心を悩まして叫び求め、神のみ声によって救い出された。（初代文集 96, 97）

救い主は十字架におかかりになる前に、弟子たちに、ご自分が殺され、墓からよみがえられることを説明された。……しかし、弟子たちは、この世においてローマのくびきから解放されることを期待していたので、彼らの望みの中心である主が不名誉な死を受けられなければならないという思いに耐えられなかった。……キリストのみ言葉によって弟子たちに将来がはっきり示されていたように、われわれにも将来のことが預言の中にはっきり示されている。恩恵期間の終わりに関係のあるできごとと、悩みの時のために備える働きとが、はっきり示されている。しかし多くの人々は、全然啓示を受けなかったかのように、これらの重要な真理を理解していない。（各時代の大争闘下巻 359, 360）

つかの間の平和

「人々が平和だ無事だと言っているその矢先に、ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むように、突如として滅びが彼らをおそって来る。そして、それからのがれることは決してできない。」（テサロニケ第一 5:3）

救いの働きが終了しつつあるその時、地上には悩みが起こり、諸国民は怒り狂うが、第三天使の働きを妨げないように、まだ抑制されている。その時に、「後の雨」、すなわち、主のみ前から慰めの時がきて、第三天使の大きな声に力をそえる。そして、最後の七つの災害がくだるときに、聖徒たちが立つことができるように準備を与える。（初代文集 173）

地の住民が極限の混乱に陥っていることをわたしは示された。戦争、大虐殺、欠乏、困窮、ききん、疫病が地上に広まった。これらのことが神の民を取り囲んだとき、彼らは共に押し進み、彼らの些細な問題を捨て去る。自己を高める気持ちが彼らを支配しなくなり、深い謙遜がそれにとって代わった。苦しみと困難によって、理性がその座をふたたび占めるようになり、短気で無分別な人は穏健な人となって、思慮分別と知恵のある行動をした。

それから一つの光景にわたしは注目した。つかの間の平和があるように思えた。もう一度地の住民がわたしの前に示された。そして再び、すべての事柄が極限までに混乱していた。飢饉と疫病を伴った争い、戦争、そして大虐殺が至るところで荒れ狂った。他の国々がこの戦争や混乱に引き入れられた。戦争が飢饉の原因となり、欠乏と大虐殺が疫病の原因となった。それらから人々の心はこれから地上に起こるべき事柄を見て、恐怖で気絶してしまった。（教会への証 1 巻 268）

世界が最後の審判について警告を受けるまで、天使は争闘の風を今は引き止めている。しかし嵐は近づいており、地を引き裂く準備はできている。神が天使に引き止めている風を放すよう命令すると、どのような筆も描き表すことの出来ないような争闘の光景が起こる。……

わずかな執行猶予の期間が恵み深くも、わたしたちに神から与えられている。天からわたしたちに貸し与えられたあらゆる力は無知のゆえに滅び行く人々のため、主がわたしたちに委ねてくださった働きを行うために、用いるべきである。（伝道 704）

平和だ無事だという叫び

「彼らは、手軽にわたしの民の傷をいやし、平安がないのに『平安、平安』と言っている。」（エレミヤ 6:14）

法王教徒、プロテスタント信徒、それに世俗の人たちも、……この合同の中に、全世界を改心させるための一大運動と、長く待ち望んでいた福千年期の先触れを認めるのである。（各時代の大争闘下巻 351）

「しかし、主の日は盗人のように襲って来る。その日には、天は大音響をたてて消え去り、天体は焼けてくずれ、地とその上に造り出されたものも、みな焼きつくされるであろう」（ペテロ第二･3:10）。哲学の論理が、神の審判の恐怖を去り、宗教家が長い平和と繁栄の時代の到来を指摘し、世が事業と快楽、植樹や建築、飲食や歓楽に心を奪われて神の警告を退け、神の使者たちをあざけっているその時、突如として滅びが彼らをおそってくる。そして、それからのがれることは決してできない（テサロニケ第一 5:3 参照）。（人類のあけぼの上巻 104）

シデムの谷の住民のように、人々は、繁栄と平和を夢みている。神のみ使いは、「のがれて、自分の命を救いなさい」と警告する。しかし、別の声は「あわてることはない。心配することはない」という。天は、すみやかな滅亡が犯罪者に臨むと宣言しているのに、人々は「平和だ、無事だ」と叫ぶ。平原の町々は、滅亡の前夜、快楽にふけり、神の使者の恐怖と警告をちょう笑した。しかし、こうしてあざけった者らは炎のなかで死んだ。恵みの戸は、あの晩、ソドムの邪悪で軽率な住民に対して永遠に閉ざされた。神を常に侮ることはできない。また神をいつまでも軽んじることはできない。「見よ、主の日が来る。残忍で、憤りと激しい怒りとをもってこの地を荒し、その中から罪びとを断ち滅ぼすために来る」（イザヤ書 13:9）。世の大多数の人々は、神の恵みを拒んで、急速に迫って避けることのできない滅亡にのまれてしまうであろう。しかし、警告に聞き従ったものは、「いと高き者のもとにある隠れ場」に住み、「全能者の陰にやどる。」（同上 175,176）

神のみ働きが終わる

「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。」（マタイ 24:14）

警告の厳粛で神聖なメッセージは、最も困難な伝道地、最も罪深い都市、そして大いなる三重のメッセージの光が、まだ照らしていないあらゆる場所に宣布されなければならない。一人残らず小羊の婚宴への最後の招きを聞くべきである。町から町へ、都市から都市へ、国から国へ、現代の真理のメッセージは、外面的な見せびらかしではなく、御霊の力によって宣布されるべきである。（福音宣伝者 23）

神の恵みの再び新しくするメッセージは、真理が世界を一巡りするまで、すべての国すべての地方に伝えられる。印を受ける者の多くは、あらゆる国民、部族、国語、民族からやってくる人たちである。あらゆる国々から集められた男女が神のみ座と小羊の前にたち、次のように言うようになる。「救いは御座にいますわれらの神と、小羊からきたる」（黙示録 7:10）。（両親、教師、生徒への勧告 532）

全地が神の真理の栄光で照らされるべきである。光は全地に、全人類に輝くべきである。そしてそれは光を受けた者から、輝き出るべきである。明けの明星がわたしたちの上にのぼっているので、わたしたちはその光を暗闇にいる人々の道に投げかけるべきである。

危機はわたしたちのすぐそばにある。わたしたちは聖霊の力によって、この最後の時代のための偉大な真理を今宣布しなければならない。すべての人が警告を聞き、自ら決定するのは、それほど先ではない。それから終わりが来る。（教会への証 6 巻 24）

第一、第二、第三天使のメッセージに含まれている真理は、あらゆる国民、部族、国語、民族に行き渡り、すべての大陸の闇を照らし、海の島々にまで達しなければならない。この働きを遅らせてはならない。

わたしたちの合言葉は前進！常に前進！である。道を備えるために天使がわたしたちの前に行く。さまざまな地域に対するわたしたちの重荷は、全地が主の栄光によって明るくされるまで、決して降ろすことはできない。（福音宣伝者 470）

神はご自分の民のために介入される

「あなたがたすべての民よ、聞け。地とその中に満てる者よ、耳を傾けよ。主なる神はあなたがたにむかって証言し、主はその聖なる宮から証言される。見よ、主はそのご座所から出てこられ、下ってきて地の高い所を踏まれる。」(ミカ1:2, 3)

品性がわかるのは、危機においてである。……恵みの時の終わりに、最後の大きなテストが来るのであるが、その時では、魂の必要を満たすのにはおそすぎる。(キリストの実物教訓 388, 389)

神は諸国民の刑罰を蓄えておられる。この世界歴史の各世紀を通じて、悪い働き人たちは怒りの日のために怒りを積みあげてきた。そして時が満ちて、罪が神の恵みの定められた限度にまで達するとき、このお方の忍耐は止む。天の記録の書に集められた記録が違反の合計を完全に示すとき、憐れみの混じらない怒りがくだり、神の忍耐が尽きるということがどれほど恐ろしいことであるかが分かる。この危機は地上の国々が神の律法を無効にすることで結合するときに達する。

義人がおびただしい不法のゆえに、神のために熱心であるよう心をかき立てられる日が来る。天来の力以外何ものも悪人と結びついたサタンの傲慢を抑制することはできない。しかし教会のこの上ない危機の時に最も熱烈な祈りが忠実な残りの民によって、教会のためになされ、そして神は違反者の罪がその高さに到達したその時に、聞いて答えて下さる。このお方は「日夜叫び求める選民のために正しいさばきをしてくださらずに長いあいだそのままにしておかれること」はないのである。(教会への証 5 巻 524)

偽りを真理の替えることがドラマの最終場面である。この代替が全世界的になるとき、神はご自身を表される。人間の法律が神の律法以上に高められるとき、地上の権力が週の初めの日を守るようにと人々に強制しようとするとき、神の働かれる時が来たことがわかる。このお方は大権のうちに立ち上がり、地を恐ろしいほどふるわれる。このお方は世の住民をその不法のゆえに罰するため、ご自分のおられる場所から出て来られる。地はその上に流された血をあらわして、殺された者を、もはやおおうことがない。(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1901 年 4 月 23 日)

人類の恩恵期間が閉じる

「不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ。」(黙示録22:11)

調査審判の働きが閉じる時、すべての者の運命は生か死かに決定される。恩恵期間は、天の雲に乗って主が来臨される少し前に閉じる。(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1905年11月15日)

あざける者たちは、自然の事物―相も変わらぬ季節の推移、雨を降らせたことのない青空、柔らかな夜の露に生気をとりもどした緑の野―を指さして、「彼はたとえ話を語っているのではないか?」と叫んだ。彼らは、義の宣伝者を軽べつして、無謀な熱狂家と呼んだ。そして彼らは、これまで以上に快楽の追求に走り、悪の道に進んでいった。しかし、彼らの不信は、予告されたできごとが起こるのを妨げはしなかった。神は、彼らの悪を長く忍ばれ、彼らに悔い改めの機会を十分にお与えになった。しかし、定められた時が来たときに、神のあわれみを拒んだ者に神の刑罰が下ったのである。

キリストは、再臨に関しても同様の不信があらわされるであろうと言われた。ノアの時代の人々が、「洪水が襲ってきて、いっさいのものをさらって行くまで、彼らは気がつかなかった」ように、「人の子の現れるのも、」そのようであろうと救い主は言われた(マタイ24:39)。神の民と称する人々が、世と結合し、世の人々のように生活し、禁じられた快楽を彼らとともにしているとき、世俗のぜいたくが教会のぜいたくとなり、結婚の鐘が鳴りひびき、すべての者が、世俗の繁栄が長年にわたって続くと思っているそのときに、突然、いなずまが天からきらめくように、彼らの輝かしい幻とむなしい望みとは、消えさるのである。(各時代の大争闘下巻28, 29)

恩恵期間の終わりに関係のあるできごとと、悩みの時のために備える働きとが、はっきり示されている。しかし多くの人々は、全然啓示を受けなかったかのように、これらの重要な真理を理解していない。サタンは、彼らに救いに至る知恵を与えるような感化をことごとく奪い去ろうとうかがっているので、彼らは悩みの時に備えができていない。(同上359, 360)

恩恵期間が過ぎても気づかない

「兄弟たちよ。その時期と場合とについては、書きおくる必要はない。あなたがた自身がよく知っているとおり、主の日は盗人が夜くるように来る。」（テサロニケ第一 5:1, 2）

義人と悪人は死ぬ運命にある状態で地上にあいかわらず生存している。すなわち人々は植え、建て、食い、飲みなどしているが、最終的な、変更できない決定が天の聖所で宣告されていることにすべての者が気づかない。洪水前に、ノアが箱舟に入った後、神はノアを閉じ込め、不信心な者を箱舟から締め出された。しかし七日間人々は自分たちの運命が決定したのも知らずに、不注意な快楽を愛する生活を続け、今にも起ころうとしている審判の警告をあざけった。「人の子が来る時も、そのようであろう」と救い主は言われる。真夜中に来る盗人のように静かに、気づかれずに、あらゆる人の運命が決まる決定的な時、罪を犯した人々への憐れみの申し出が最終的に取り下げられる時が来る。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1905 年 11 月 9 日）

人々は致命的な安心感へと速やかに寝かしつけられており、神の怒りのほとばしりによってはじめて目覚めるのである。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1909 年 12 月 8 日）

審判において主は、終わりの時に、地上を行き巡られ、恐ろしい疫病が降り始める。そして神のみ言葉を侮った者たち、軽んじた者たちは海から海へ北から東へとさまよう。彼らは主のみ言葉を捜し求めてあちらこちらと走り回るが見つけない。……神の牧師たちは最後の働きをなし終え、最後の祈りをし、反抗的な教会と不信心な人々のために最後の苦い涙を流す。（原稿1、1857 年）

各時代を見通されるイエスの目は、「もしおまえも、この日に、平和をもたらす道を知ってさえいたら」と仰せになったその時を見据えておられた。神がご自分の律法の保管者とされた教会よ、まだあなたの日だ。信頼と恩恵期間のこの日は閉じようとしている。太陽は速やかに西にかたむいている。日は沈み、あなたは「平和をもたらす道」を知らないということがありえるだろうか。「しかし、それは今おまえの目に隠されている」という、変更できない判決がなされなければならないのだろうか（ルカ 19:42）。（手紙 1887 年 , 58）

かつてなかったほどの悩みの時

「その時あなたの民を守っている大いなる君ミカエルが立ちあがります。また国が始まってから、その時にいたるまで、かつてなかったほどの悩みの時があるでしょう。しかし、その時あなたの民は救われます。すなわちあの書に名をしるされた者は皆救われます。」（ダニエル 12:1）

第三天使のメッセージが閉じられると、もはや地の罪深い住民のためのあわれみの嘆願はなされない。神の民はその働きを成し遂げたのである。彼らは「後の雨」と「主のみ前から」来る「慰め」を受けて、自分たちの前にある試みの時に対する準備ができた。天使たちは、天をあちらこちらへと急ぎまわっている。一人の天使が地から戻ってきて、自分の働きが終わったことを告げる。すなわち、最後の試みが世界に臨み、神の戒めに忠実であることを示した者はみな、「生ける神の印」を受けたのである。その時イエスは天の聖所でのとりなしをやめられる。イエスはご自分の手をあげて、大声で「事はすでに成った」と仰せになる。……

イエスが聖所を去られると、暗黒が地の住民をおおう。その恐ろしい時に、義人は仲保者なしに聖なる神のみ前に生きなければならない。悪人の上に置かれていた抑制が取り除かれ、サタンは最後まで悔い改めない者を完全に支配する。神の忍耐は終わった。世は神のあわれみを拒み、その愛をさげすみ、その律法をふみにじってきた。悪人は恩恵期間の限界を越えた。頑強に拒まれてきた神のみ霊は、ついに取り去られた。彼らは神の恵みの守りを失って、悪魔に対する防備が全くない。その時サタンは、地の住民を大いなる最後の悩みに投げ入れる。神の天使たちが人間の激情の激しい風を抑えるのをやめると、争いの諸要素がことごとく解き放たれる。全世界は、昔のエルサレムを襲ったものよりもっと恐ろしい破滅に巻き込まれる。（各時代の大争闘下巻 385, 386）

手が清く、心のいさぎよい者だけが、その苦しい時に立つことができる。……四人の天使が四方の風を引き止めている今こそ、われわれの召しと選びとを確かなものにする時である。（初代文集 129, 130）

解き放たれる四方の風

「わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなってはならない。」（黙示録 7:3）

天使たちは世界を取り囲んでおり、サタンの信奉者の膨大な数のゆえになされたサタンとサタンの至上権を拒絶している。わたしたちには声は聞こえず、この天使たちの働きを生来の視力で見ることはないが、彼らの手は世界の周囲を囲んでつながっており、神の民に印する働きがなし遂げられるまで眠ることなくサタンの軍勢を寄せつけないよう警戒している。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘｰ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]7 巻 967）

ヨハネは自然の要素、すなわち四人の天使によって引き止められていると表されている地震、大嵐、政治闘争を見る。この風は神が吹き荒れるようにと仰せになるまで抑制されている。神の教会の安全がある。天使たちは神のお命じになることを行い、地上の風を引き止めているので、神の僕が彼らの額に印を押されるまでは、風は地にも海にも木にも吹き付けない。（牧師への証 444）

現代は生きているすべての者に圧倒的な関心を起こさせる時代である。支配者、政治家、責任や権威ある地位を占めている人々、あらゆる階級の考え深い男女は、わたしたちの周りに起こっている出来事に注目している。彼らは諸国民の間に存在する緊迫した、不安な関係を見つめている。この人々は地上のあらゆる要素を占めている緊張を観察し、何か大きく決定的なことが起こりそうだということ、すなわち世界が途方もない危機の瀬戸際にいることに気づいている。

世が来るべき運命について警告を受けるまで、天使は今、争いの風を抑えている。しかし、嵐は次第に募ってきており、地上に吹き荒れる準備はできている。だから風を解き放つよう神が天使に命じられるなら、筆で描き表すことのできないような恐ろしい争闘の光景が見られるであろう。……

神はわたしたちに慈悲深く小休止の瞬間を与えてくださっている。天からわたしたちに貸し与えられたどの能力も、無知のゆえに滅びつつある人々のために、主からわたしたちに割り当てられた働きを行うために用いるべきである。警告のメッセージが世界のすべての地域に響くべきである。……大いなる働きがなされるべきであり、そしてこの働きは現代の真理を知っている者に委ねられている。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1905 年 11 月 23 日）

最後の七つの災いがくだり始める

「それから、大きな声が聖所から出て、七人の御使にむかい、『さあ行って、神の激しい怒りの七つの鉢を、地に傾けよ』と言うのを聞いた。」（黙示録 16:1）

キリストが聖所における彼のとりなしをやめられるとき、獣とその像を拝み、その刻印を受ける者たちに警告された、混ぜもののない怒りが注がれる (黙示録 14:9, 10 参照)。神がイスラエルを救い出そうとされたときに、エジプトにくだった災いは、神の民の最後の救出の直前に世界にくだるもっと恐ろしくもっと広範囲に及ぶ刑罰と類似した性格のものであった。黙示録の記者は、その恐ろしい災いを描写して次のように言っている。「獣の刻印を持つ人々と、その像を拝む人々とのからだに、ひどい悪性のでき物ができた。」「海は死人の血のようになって、その中の生き物がみな死んでしまった。」「川と水の源と (は)……みな血になった。」このような刑罰は恐ろしいものであるが、神の正義は完全に擁護されるのである。神の天使は、次のように叫ぶ。「このようにお定めになったあなたは、正しいかたであります。聖徒と預言者との血を流した者たちに、血をお飲ませになりましたが、それは当然のことであります」(黙示録 16:2 － 6)。彼らは、神の民を死に定めることによって、彼ら自身の手で血を流したのと全く同じ罪を犯したのである。……

これらの災いは、全世界的なものではない。さもないと、地上の住民は全く滅ぼされてしまうであろう。しかし、それでもこれは、人類史上かつてなかった恐ろしい災いである。恩恵期間の終了する前に人々の上にくだった刑罰には、あわれみが混じっていた。キリストのとりなしの血によって、罪人はその罪にふさわしい罰を受けずにすんだのである。しかし、最後の刑罰においては、あわれみを混じえずに怒りが注がれるのである。（各時代の大争闘下巻 403, 404）

神の怒りの電光がまもなく下る。そして神が罪をおかした者たちを罰し始めると、終るまで止むことはない。神の怒りの風は次第に募ってきており、神の愛のうちにある真理を通して清められた者だけが、その日に立ち得るのである。荒廃が過ぎ去るまでこの人々はキリストと共に神のうちに隠される。（牧師への証 182）

死刑令が発布される

「また、その獣を拝まない者をみな殺させた。」(黙示録 13:15)

イエスが至聖所を出られるとき、それまで支配者や人々を抑制していた聖霊の働きは取り去られる。彼らは悪天使たちに支配されるがままになる。その時、法律はサタンの助言や方針に従って作られるので、時が非常に短くされない限り、だれ一人肉なるものが救われることはない。(教会への証 1 巻 204)

四人の御使が、聖所におけるイエスの働きが終わるまで、地の四方の風を引き止めており、それから七つの災いがくだるのを、わたしは見た。これらの災いは、悪人たちに、義人たちへの激しい怒りを抱かせた。彼らは、われわれが彼らの上に神の刑罰をもたらしたのであって、われわれを地上から除けば災いがやむと考えた。聖徒たちを殺す布告が発せられた。そのために聖徒たちは、昼も夜も救いを叫び求めた。これがヤコブの悩みの時であった。(初代文集 97)

次にわたしが見たのは、地上の有力な人たちが一緒に相談しているまわりを、サタンと悪天使たちが忙しく飛びまわっている光景だった。わたしはまた、聖徒たちがその特殊な信仰を捨て、安息日をやめて、週の初めの日を守らなければ、一定期間の後には、だれでも彼らを自由に殺してもよいという命令が書かれ、その写しが各地にばらまかれるのを見た。(同上 456)

戒めを守る人々を死刑にするという全般的布告は、その時日を定めているにもかかわらず、敵たちは、ある場合には法令の時期を早めて、定められた時よりも前に彼らの命を取ろうとする。しかし、すべての忠実な人々の回りに駐屯している力強い警護者たちを通り過ぎることは、だれにもできない。なかには、町や村から逃げる途中に襲われる者たちもいる。しかし、彼らに向かってあげられた剣は、折れてわらのように力なく落ちる。また他の者たちは、軍人の姿をした天使たちによって守られる。(各時代の大争闘下巻 407)

もし人々の目が開かれて、天の幻を見ることができたならば、力強い天使の一団が、キリストの忍耐の言葉を守る者たちの回りに駐屯しているのを見るであろう。天使たちは、優しい同情の念をもって、彼らの苦悩を見つめ、彼らの祈りを聞くのである。彼らは、人々を危機から救出せよという指揮官の言葉を待っている。しかし、彼らは、もう少し待たなければならない。神の民は、杯を飲み、バプテスマを受けなければならない。(同上 406)

死刑と定められる

「そして急使をもってその書を王の諸州に送り、……一日のうちにすべてのユダヤ人を、若い者、老いた者、子供、女の別なく、ことごとく滅ぼし、殺し、絶やし、かつその貨財を奪い取れと命じた。」（エステル 3:13）

最後に神の残りの民に対して出される布告は、ユダヤ人に対してアハシュエロス (クセルクセス) が発したものと非常によく似ている。（国と指導者下巻 209）

人間の法律による保護が、神の律法を尊ぶ者たちから取り去られると、彼らを滅ぼそうとする運動が、あちこちの国で、いっせいに起こる。法令に定められた時が近づくにつれて、人々は、この憎い教派を根こそぎにしようとたくらむ。一夜のうちに決定的な打撃を与えて、異議と非難の声を、全く沈黙させようということが決定される。（各時代の大争闘下巻 412）

彼らは戒めの第四条の安息日を無視して、週の第一日目を尊ばなければならない。さもなければ死刑となるという法令が発布される。しかし聖徒たちは主の安息日を捨てて、ふみにじるようなことはせず、ローマ法王権の制度を尊ばない。サタンの軍勢と悪人たちは彼らを取り囲み、勝ち誇る。なぜなら聖徒たちには逃げ道がないように思えるからである。（教会への証 1 巻 353, 354）

この悩みの時がくる時には、どの判決も下っている。これ以上恩恵期間はなく、悔い改めなかった者への憐れみも、これ以上ない。生ける神の印はこのお方の民に押されている。龍の軍勢によって終結した地上の権力との命がけの闘争の中で自分を守ることのできない残りの民の小さな群れは、神を自分たちの防御とする。迫害と死の苦しみのもとに、彼らが獣を拝み、獣の刻印を受けるようにという法令が地上の最高権力によって通過した。（同上 5 巻 213）

まもなくわたしは、聖徒たちが非常な心の苦しみに会うのを見た。彼らは地上の悪い住民にとりかこまれているように見えた。どこを見ても、何もかも彼らに敵対していた。聖徒のある者は、神がついに自分たちを悪人の手で滅ぼされるがままにまかされたのではないかと心配しはじめた。……

それは聖徒たちにとって、恐ろしい苦悩の時だった。昼も夜も彼らは神に救いを求めて叫んだ。見たところ、とてものがれるすべはなかった。悪人たちは、すでに勝利しはじめて、「お前たちの神はなぜ、われわれの手からお前たちを救い出さないのか。天へのぼって行って、自分の生命を救ったらどうだ」と叫ぶのだった。しかし聖徒たちは、悪人たちには目もくれなかった。（初代文集 457, 458）

悩みの時の天使の守り

「さあ、わが民よ、あなたのへやにはいり、あなたのうしろの戸を閉じて、憤りの過ぎ去るまで、しばらく隠れよ。」（イザヤ 26:20）

恐ろしい試練の日に彼〔キリスト〕は「さあ、わが民よ、あなたのへやにはいり、あなたのうしろの戸を閉じて、憤りの過ぎ去るまで、しばらく隠れよ」と仰せになる。彼らが隠れる部屋とは何であろうか。その部屋とはキリストと聖天使たちとの守りである。神の民は、この時すべての者が一箇所にいるわけではない。彼らは全地に広がった、それぞれの群れの中にいる。（ﾋｽﾄﾘｶﾙ・ｽｹｯﾁ 158）

わたしは、聖徒たちが都会や村を去り、互いに共同して団体をつくり、人里離れた場所に生活するのを示された。悪人たちが飢えと渇きに苦しんでいる時に、天使たちは聖徒たちに食物と水をあたえた。（初代文集 456）

夜半、非常に印象的な光景がわたしの前を通りすぎた。大きな混乱と軍隊の闘争があるように思えた。主からの使者がわたしの前にたち、「あなたの家族を呼びなさい。わたしがあなたがたを導いていくから、わたしについてきなさい」と言った。彼はわたしを暗い小道に連れおろし、森をぬけて山の裂け目を通り抜けて、「ここならあなたは安全だ」と言った。そこにはこの避難所に導かれた他の人々がいた。天からの使者は「主があなたがたにその時が来るといわれたように、悩みの時は夜、盗人のようにやってくる」と言った。（ｴﾚﾝ.G.. ﾎﾜｲﾄ原稿 1905 年 153）

キリスト再臨直前の悩みの時にも、義人たちは天のみ使いたちの奉仕によって守られるのである。しかし、神の律法を犯すものは安全ではない。天使たちは、神の戒めの一つでも無視する者を保護することはできないのである。（人類のあけぼの上巻 292）

主は地上歴史の最後の時代において、正義のために固く立つ人々のために、大いなる働きをなさるのである。……かつてなかったほどの悩みの時の最中に、神に選ばれた人々は揺らぐことなく立つのである。サタンは悪の全軍をもってしても、神の聖徒たちの最も弱い者をさえ滅ぼすことはできない。強い力をもった天使が彼らを守る。そして主は、主に信頼する者を全く救うことがおできになる「神々の神」として、彼らのためにご自身をあらわされるのである。（国と指導者下巻 121）

七つの災いの時の悪人たち

「主なる神は言われる、『見よ、わたしがききんをこの国に送る日が来る、それはパンのききんではない、水にかわくのでもない、主の言葉を聞くことのききんである。彼らは海から海へさまよい歩き、（北から東へと）主の言葉を求めて、こなたかなたへはせまわる、しかしこれを得ないであろう。』」（アモス 8:11, 12）

恵みのやさしい声が消えると、悪人たちは恐怖にとりつかれた。「遅すぎた！遅すぎた！」ということばを、彼らは恐ろしい気持ちではっきりきいた。（初代文集 454）

神の怒りの杯が罪人に注がれる時、彼らが感じる苦しみを、キリストは〔十字架の上で〕強く感じられた。死のとばりのような暗黒の絶望が、罪を犯した魂の周りを取り巻くので、彼らは罪の罪深さを最大限まで痛感する。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1883 年 2 月 15 日）

神のみことばを尊んでいなかった人々が、海から海へ、北から東へとさすらいながら、神のみことばを求めて、あちらこちらへと急いでいた。天使は言った。「あの人たちは、神のみことばを見つけることができない。地にはききんがある。それは、食物に飢え、水にかわくききんではなくて、神のみことばを聞くことのできないききんである。彼らは、神からただ一言のおほめのことばをいただくことさえできるなら、何ものも惜しまないだろう。」……

災害の結果に苦しんで、悪人たちの多くは怒りに燃えた。それは恐ろしい苦悶の光景だった。親は子供たちを激しく非難し、子供たちは親を、兄弟は姉妹を、姉妹は兄弟を非難していた。……人々は、激しい憎しみをもって牧師たちに向かい、「あなたは、わたしたちに警告してくれなかった。あなたは、全世界の人が悔い改めて救われる時が来ると言ったではないか。あなたは、平和だ、平和だと叫んで、恐怖心の起きるたびに、それを静めてしまって、こんなことになるとは言わなかったではないか。わたしたちに警告する人があると、あれは狂信者で、わたしたちを滅ぼす悪い人たちだと、あなたは言ったではないか」と言って、彼らを責めた。しかしわたしは、牧師たちも神の怒りをまぬかれないのを見た。彼らの苦しみは、人々の苦しみよりも十倍も激しかった。（初代文集 454 ～ 456）

神の判決が憐れみを交えずに下るその時に、悪人たちは、「いと高き隠れ場に」、すなわち、主がご自分を愛し、そのいましめに従ったすべての者をかくまわれる天蓋に宿る者の立場をどれほどうらやむことであろうか。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘｰ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]3 巻 1150）

ヤコブの悩みの時

「悲しいかな、その日は大いなる日であって、それに比べるべき日はない。それはヤコブの悩みの時である。しかし彼はそれから救い出される。」（エレミヤ 30:7）

四人のみ使いが、聖所におけるイエスの働きが終わるまで、地の四方の風を引き止めており、その後で、七つの災いがくだるのを、わたしは見た。これらの災いは、悪人たちに、義人たちに対する激しい怒りを抱かせた。彼らは、われわれが彼らの上に神の刑罰をもたらしたのであって、われわれを地上から除けば災いがやむと考えた。聖徒たちを殺す布告が発せられた。そのために聖徒たちは、昼も夜も救いを叫び求めた。これがヤコブの悩みの時であった。（初代文集 97）

サタンは、エサウを動かしてヤコブに立ち向かわせたように、悩みの時に、悪人たちを煽動して神の民を滅ぼそうとする。そして彼は、ヤコブを訴えたように、神の民に対する非難を申し立てる。彼は、世界を自分の手中にあるものと考えている。しかし神の戒めを守る小さな群れが、彼の主権に反抗しているのである。もし彼が、彼らを地上から一掃することができるなら、彼の勝利は完全なものとなる。彼は、天使が彼らを守っているのを見て、彼らの罪が許されたことを推測するが、彼らの調査が天の聖所において決定されたことは知らない。サタンは、自分が彼らを誘惑して犯させた罪を正確に知っている。そして彼は、それらを神の前に大きく誇張して示し、この人々は自分と同様に神の恵みから当然除外されるべきであると主張する。主が、彼らの罪を許しながら、サタンとその使いたちを滅ぼすことは、正当ではないと彼は宣言するのである。サタンは彼らを、自分のえじきあると主張し、滅ぼすために自分の手に与えられるべきであると要求する。

サタンが、神の民をその罪のゆえに責めるときに、主はサタンが、彼らを極限まで試みることを許される。神に対する彼らの信頼、彼らの信仰と堅実さとが、激しく試みられる。彼らは、過去をふりかえると、望みを失ってしまう。なぜなら、その全生涯の中に、よいところをほとんど見ることができないからである。彼らは、自分たちの弱さと無価値とを十分に自覚している。サタンは、彼らの状態は絶望的で、彼らの汚れたしみは洗い去ることができないと思わせて、彼らを恐怖に陥れようとする。サタンは、彼らの信仰をくじいて、彼らを彼の誘惑に負けさせ、神に対する忠誠を放棄させようと望むのである。（各時代の大争闘下巻 391, 392）

なぜ悩みの時なのか

「神はわれらの避け所また力である。悩める時のいと近き助けである。」(詩篇46:1)

神の民は、彼らを滅ぼそうとする敵に取り囲まれるが、しかし彼らの味わう苦悩は、真理のために受ける迫害を恐れてのものではない。彼らは、自分たちがすべての罪を悔い改めているかどうか、また、自分たちの中の何かのあやまちによって、「全世界に臨もうとしている試錬の時に、あなたを防ぎ守ろう」という救い主の約束の成就を妨げるのではないか、ということを恐れるのである(黙示録3:10)。もし彼らが、許しの確証を持つことができるならば、拷問も死をもいとわないであろう。しかし万一、許しに値しない者であることがわかって、自分自身の品性の欠陥のゆえに生命を失うようなことがあれば、それは神の聖なるみ名を辱しめることになってしまう。

彼らは、至るところに反逆の陰謀を聞き、暴動が活発に起きるのを見る。そして彼らの心の中には、この大いなる背教が終わるように、そして悪人たちのよこしまが終わるようにという、強烈な願望と熱望が起こる。しかし、彼らが、反逆の活動をとどめるよう神に祈っていながらも、自分自身には悪の大きな潮流に抵抗する力も押し返す力もないことを感じて、激しい自責の念にかられる。もし彼らが、彼らの全能力を常にキリストの奉仕に用いていたならば、そして力から力へと進んでいたならば、サタンの勢力はこれほど優勢な力をもって襲ってはこないだろうと、彼らは感じるのである。

彼らは、彼らの多くの罪をこれまで悔い改めたことを指し示して、神の前で彼らの心を悩まし、「わたしの保護にたよって、わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ」という救い主の約束をこい求める(イザヤ書27:5)。彼らの信仰は、祈りが直ちに答えられないからと言って、なくなってしまわない。激しい不安、恐怖、苦悩に苦しみながらも、彼らは祈り求めることをやめない。彼らは、ヤコブが天使をつかまえたように、神の力を捕える。そして、「わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません」と彼らは心の中で叫ぶのである。(各時代の大争闘下巻392, 393)

悩みの時はキリストのような品性を身につけるための厳しい試練である。それは神の民がサタンとその誘惑を拒否するために計画されたものである。(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1884年8月12日)

神の目はご自分の民の上にある

「まして神は、日夜叫び求める選民のために、正しいさばきをしてくださらずに長い間そのままにしておかれることがあろうか。あなたがたに言っておくが、神はすみやかにさばいてくださるであろう。」（ルカ 18:7, 8）

悩みの時においても、神の民は、恐怖と苦悩にさいなまれているとき、まだ告白していない罪を思い出すならば、彼らは圧倒されてしまうことであろう。絶望が彼らの信仰を断ち切り、彼らは神に救いを求める確信が持てなくなることであろう。しかし、彼らは、自分たちが無価値なことを深く感じてはいるが、告白すべき罪を隠してはいない。彼らの罪は、前もってさばかれて、消し去られている。彼らは、罪を思い出すことができない。……

なんの準備もせずに、最後の恐るべき争闘に当面するこれらの自称キリスト者たちは、絶望して、激しい苦悶の叫びをあげて彼らの罪を告白する。そして悪人たちは、彼らの苦悩をながめて勝ち誇るのである。……

ヤコブの生涯はまた、欺かれ、試みられ、罪に陥れられても、真に悔い改めて神に立ちかえった者を、神は見捨てられないという保証でもある。サタンはこのような人々を滅ぼそうとするが、神は天使を遣わして、危機の時に彼らを慰め、保護されるのである。サタンの攻撃は、激しく、断固たるもので、彼の欺瞞は恐るべきものである。しかし、主の目はご自分の民に向けられ、その耳は彼らの叫びを聞かれる。彼らの苦悩は大きく、炉の火は彼らを焼き尽くすように思われる。しかし、金を吹き分ける者であられる神は、彼らを火で練った金として取り出される。この最も激しい試練の時における、神のその子供たちに対する愛は、彼らの最も輝かしい繁栄の時と同じように、強く、やさしいのである。しかし、彼らは、火の炉に投げ入れられる必要がある。キリストの姿が完全に反映されるように、彼らの世俗的なところが焼きつくされねばならない。

われわれの前にある苦悩と苦悶の時は、疲労と遅延と飢えに耐えることのできる信仰、すなわち、激しく試みられても落胆しない信仰を要求する。その時に備えるために、すべての者に恩恵期間が与えられている。……彼［ヤコブ］のように神の約束をしっかりとつかみ、彼のように熱心で忍耐強い者はみな、彼が勝利したように勝利するのである。（各時代の大争闘下巻 393 ～ 395）

大いなる悩みの時

「その日には、神が万物を造られた創造の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような患難が起るからである。」（マルコ 13:19）

かつてなかったような悩みの時が、まもなくわたしたちの前に展開する。だからわたしたちは、今持っておらず、多くの者が怠けて得ようとしない経験をする必要がある。困難が、実際には予想したほどではないということがしばしばある。しかし、わたしたちの前途にある危機はそうではない。もっとも鮮明な描写も、その厳しい試練の大きさには及ばない。だから今、尊い救い主がわたしたちのために、贖罪の働きをしてくださっている間に、わたしたちは、キリストのうちにあって完全なものとなるよう求めるべきである。神のみ摂理は、わたしたちがイエスの柔和とへりくだりを学ぶ学校である。主はわたしたちにとって楽で、心地よく、選びたいと思う道ではなく、人生の真の目的をわたしたちの前に常に置いておられる。だれも自分の魂を最も恐ろしい危機にさらすことなく、この働きを無視したり延期することはできない。

使徒ヨハネは幻の中で、「地と海よ、おまえたちは災いである。悪魔が、自分のときの短いのを知り、激しい怒りをもって、おまえたちのところに下ってきたからである」と大きな声が天で叫ぶのを聞いた。天の声からこの叫びを出させる光景は実に恐ろしいものである。サタンの怒りは、彼のときが短ければ短いほど増し加わり、その策略と破壊の働きは悩みのときに最高潮に達する。神の長い忍耐は終った。世はこのお方の恵みを拒み、その愛を侮り、その律法をふみにじった。悪人たちが自分の恩恵期間の限界を超えた。そして主はご自分の保護を引き上げ、彼らを自分たちの選んだ指導者のなすがままに任せるのである。サタンは、自らをサタンの支配に任せる者たちの上に権力をふるう。そして地の住民を大いなる最後の悩みに投げ入れる。天使が人間の激情という恐ろしい風を抑制するのを止めるとき、すべての争いの要素が解き放される。全世界は昔のエルサレムに起こったよりも、もっと恐ろしい破滅へと巻き込まれる。（預言の霊 4 巻 440, 441）

国が始まってからその時に至るまで、かつてなかったほどの悩みの時の最中に、神に選ばれた人々は揺らぐことなく立つのである。サタンは悪の全軍をもってしても、神の聖徒たちの最も弱い者をさえ滅ぼすことはできない。（国と指導者下巻 121）

欺瞞の傑作

「忍耐についてのわたしの言葉をあなたが守ったから、わたしも、地上に住む者たちをためすために、全世界に臨もうとしている試錬の時に、あなたを防ぎ守ろう。」(黙示録 3:10)

わたしたちの主イエス・キリストの再臨が近づくとき、サタンの代理人たちは下から動かされる。サタンは人間として現われるだけでなく、イエス・キリストを装う。そして真理を拒んだ世は彼を主の主、王の王として受け入れる。(SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘｰ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]5 巻 1105, 1106)

サタンの怒りは、彼の時が短くなるにつれて増し加わり、欺瞞と破壊の働きは、悩みの時に最高潮に達する。……

欺瞞の一大ドラマの最後を飾る一幕として、サタンはキリストを装うであろう。教会は、救い主の来臨を教会の望みの完成として期待していると長い間公言してきた。今や大欺瞞者は、キリストがおいでになったように見せかける。地上のあちらこちらで、サタンは、黙示録の中でヨハネが述べている神のみ子についての描写に似た、まばゆく輝く威厳ある者として人々の中に現われる (黙示録 1:13 ～ 15 参照)。彼をとりまいている栄光は、これまで人間の目が見たどんなものも及ばない「キリストがこられた、キリストがこられた」という勝利の叫びが、空中に鳴り響く。人々が彼をあがめてその前にひれ伏すと、彼は両手をあげて、キリストが地上におられた時に弟子たちを祝福されたように、彼らに祝福を宣言する。彼の声は柔らかく穏やかで、しかも美しい調べに満ちている。やさしい同情のこもった調子で、彼は、救い主が語られたのと同じ祝福に満ちた天の真理を幾つか述べる。彼は人々の中の病人をいやし、それから、キリストらしくみせかけながら、安息日を日曜日に変えたことを主張し、すべての人に対して、自分が祝福した日を聖とするようにと命じる。彼は、あくまでも第七日をきよく守り続ける者は、光と真理とをもって彼らに遣わされたわたしの天使たちの言うことを聞かないで、わたしの名を冒涜している者だと宣言する。これは強力な、ほとんど圧倒的な惑わしである。魔術師シモンに欺かれたサマリヤ人のように、多くの人々は、小さい者から大きい者にいたるまで、これらの魔術に心を奪われて、この人こそは「『大能』と呼ばれる神の力」であると言う (使徒行伝 8:10)。

しかし、神の民は欺かれない。このにせキリストの教えは聖書と一致していない。(各時代の大争闘下巻 398, 399)

恩恵期間が閉じた後に殉教者はいない

「彼がわたしを呼ぶとき、わたしは彼に答える。わたしは彼の悩みのときに、共にいて、彼を救い、彼に光栄を与えよう。」（詩篇 91:15）

神の民は苦難を免れるわけではない。彼らは迫害と苦しみに会い、窮乏に耐え、食物の不足に苦しむのである、滅びるままにほうっておかれたりはしない。……

しかし、人間の目から見るならば、神の民は、むかしの殉教者たちのように、まもなくその血をもってあかしに印を押さなければならないように思われる。彼ら自身、主が彼らを離れて、彼らを敵の手に渡されたのではないかと恐れ始める。それは、恐ろしい苦悩の時である。彼らは、昼も夜も神に救いを叫び求める。……

神の目は、各時代を見通して、地上の勢力の総攻撃が起こるとき神の民が直面しなければならない危機に注がれる。彼らは、捕われた流浪の民のように、飢えや暴力によって死ぬのではないかと恐れる。しかし、イスラエル人の前で紅海を分けられた聖なる神は、その大いなる力をあらわして、彼らを捕われの身からもどされるのである。「万軍の主は言われる、彼らはわたしが手を下して事を行う日に、わたしの者となり、わたしの宝となる。また人が自分に仕える子をあわれむように、わたしは彼らをあわれむ」(マラキ書 3:17)。この時、キリストの忠実な証人たちの血が流されたとしても、それは、殉教者の血のように神のために収穫をもたらすためにまかれる種とはならないのである。彼らの忠誠は、他の人々に真理を悟らせるあかしとはならない。なぜなら、強情な心は、寄せてくるあわれみの波を拒み続けて、それらが二度とかえって来ないようにしてしまったからである。今義人が、むざむざ敵のえじきになるならば、それは暗黒の君の勝利になってしまう。そこで詩篇記者は「主 (は) 悩みの日に、その仮屋のうちにわたしを潜ませ、その幕屋の奥にわたしを隠 (される)」と言っている (詩篇 27:5)。キリストも言われた。「さあ、わが民よ、あなたのへやにはいり、あなたのうしろの戸を閉じて、憤りの過ぎ去るまで、しばらく隠れよ。見よ、主はそのおられる所を出て、地に住む者の不義を罰せられる」(イザヤ書 26:20, 21)。彼が来られるのを忍耐して待つ者たち、その名がいのちの書に記されている者たちの救出は、実に輝かしいものとなる。（各時代の大争闘下巻 404 ～ 411）

神の民が救出される

「しかし主はこう言われる、『勇士がかすめた捕虜も取り返され、暴君が奪った獲物も救い出される。わたしはあなたと争う者と争い、あなたの子らを救うからである』。」（イザヤ 49:25）

人間の法律による保護が、神の律法を尊ぶ者たちから取り去られると、彼らを滅ぼそうとする運動が、あちこちの国で、いっせいに起こる。法令に定められた時が近づくにつれて、人々は、この憎い教派を根こそぎにしようとたくらむ。一夜のうちに決定的な打撃を与えて、異議と非難の声を、全く沈黙させようということが決定される。

神の民は、独房の中にいる者たちもあれば、森林や山々の寂しい隠れ家にいる者たちもあるが、なおも神の保護を求めて祈っている。一方、いたるところで、武装した集団が悪天使の軍勢にかりたてられて殺害の準備をしている。絶体絶命の今こそ、イスラエルの神が、ご自分の選民を救うために手を下されるのである。……

かちどきや、あざけりや、のろいの声をあげながら、悪人たちの群れが、今にもそのえじきに飛びかかろうとするそのとき、見よ、夜の暗黒以上の深いやみが、地をおおうのである。続いて、神のみ座からの栄光に輝くにじが天にかかり、祈っているどの群れをも取り囲むように見える。怒り狂った群衆が、急に引き止められる。彼らのあざ笑いの叫びが消える。なんのために殺気だっていたのかも忘れられる。彼らは、恐ろしい予感におののきながら神の契約の象徴を見つめ、その圧倒的な輝きから隠れたいと願う。

神の民には、「上を見なさい」というはっきりした音楽のような声が聞こえてくる。彼らが目を天に向けると、約束のにじが見える。大空をおおっていた黒い、怒ったような雲が裂けて、彼らは、ステパノのようにじっと天を見つめて、神の栄光と、人の子がそのみ座にすわっておられるのを見る。（各時代の大争闘下巻 412,413）

全世界が暗黒に閉ざされているときに、聖徒たちのすべての住居には光がある。彼らは、キリストの再臨の最初の光を認める。（国と指導者下巻 320）

真夜中の救出

「彼ら〔悪人たち〕はまたたく間に死に、民は夜の間に振われて、消えうせ、力ある者も人手によらずに除かれる。」(ヨブ 34:20)

このお方はいつも、ご自分の力を表すために、窮地、すなわちサタンの働きから救われる見込みのないように見える時を選んでこられた。(教会への証 5 巻 714)

神が、ご自分の民を救うためにその力をあらわされるのは、真夜中である。太陽がその力強い光を放って現われる。しるしと不思議とがあとからあとから現われる。悪人たちはこの光景を、恐れと驚きとをもってながめる。一方義人たちは、自分たちの救いの前兆を厳粛な喜びで迎える。自然界の万物は、それぞれの軌道からはずれたように見える。川の流れは止まる。黒い厚い雲が現われて、互いに衝突する。この怒ったような天の真ん中に、一か所言うに言われぬ栄光に満ちた澄んだ空間があって、そこから神のみ声が、多くの水の音のように聞こえてきて、「事はすでに成った」と告げるのである (黙示録 16:17)。(各時代の大争闘下巻 414)

天体は神の声によって揺り動かされる。そのときに、日、月、星は、それぞれの場所から動かされる。それらはなくなってしまうのではなくて、神の声によって揺り動かされるのである。

重い黒雲が現れて互いにぶつかり合った。大気は分かれて巻き去られた。そのときにわれわれは、オリオン星座の空間を通してその向こうを見ることができた。そこから神のみ声が聞こえた。(初代文集 104)

人の子の来臨に関して、大地震が地を揺り動かし、人々が神のみ声を聞くまで、このことは起こらない。彼らは建国以来なかったほどの絶望と困難の中にいる。この中で神の民は苦悩に会う。天の雲はぶつかり合い暗闇となる。その時天から声が聞こえて、雲は巻物のように巻き去られる。そして人の子の輝く、はっきりとしたしるしがそこにある。神の子らはその雲が何を意味しているのかを知っている。(原稿 81、1886 年)

十四万四千人は勝利した。彼らの顔は神の栄光に輝いた。(初代文集 97)

神のみ声が神の民を捕われの身からかえされるときに、人生の大きな争闘においてすべてを失った人々に、恐るべき覚醒が起こる。(各時代の大争闘下巻 436)

神の敵にとっての怒りの日は、神の教会にとっては最後の救いの日である。(国と指導者下巻 328)

神は自然をひっくり返される

「第七の者が、その鉢を空中に傾けた。すると、大きな声が聖所の中から、御座から出て、『事はすでに成った』と言った。すると、いなずまと、もろもろの声と、雷鳴とが起り、また激しい地震があった。それは人間が地上にあらわれて以来、かつてなかったようなもので、それほどに激しい地震であった。」(黙示録 16:17, 18)

わたしたちは第七の鉢を傾けることについて学ぶ必要がある。悪の力は苦闘なしに戦いを放棄したりはしない。(SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘｰ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]7 巻 983)

この怒ったような天の真ん中に、一か所言うに言われぬ栄光に満ちた澄んだ空間があって、そこから神のみ声が、多くの水の音のように聞こえてきて、「事はすでに成った」と告げるのである (黙示録 16:17)。

その声が天と地とを震動させる。大地震が起こる。「それは人間が地上にあらわれて以来、かつてなかったようなもので、それほどに激しい地震であった」(同 16:18)。大空は、開いたり、閉じたりするように見える。神のみ座からの栄光が、ひらめき渡るように見える。山々は、風にゆらぐ葦のように揺れ、ゴツゴツした岩があたり一面に飛び散る。嵐が近づいているようなうなり声がする。海は荒れ狂っている。強風のかん高い音が、破壊行為に従事している悪鬼らの声のように聞こえる。全地は海の波のように隆起し揺れ動く。地の表面は砕け散る。地の基そのものが崩れつつあるように見える。山脈は沈下していく。人々の住んでいる島々が消えていく。罪悪に満ちてソドムのようになってしまった海港は、怒った水にのまれてしまう。神は大いなるバビロンを思い起こし、「これに神の激しい怒りのぶどう酒の杯を与えられ」る。「一タラントの重さほど」の大きな雹が、破壊の働きをしている (同一 16:19, 21)。おごり高ぶっていた地上の諸都市が低くされる。世の偉大な人たちが、自分たちに栄光を帰するために巨額の富を費やして建てた堂々たる宮殿が、彼らの目の前で崩れ去る。牢獄の壁は砕けて落ち、信仰のためにつながれていた神の民が解放される。(各時代の大争闘下巻 414, 415)

特別復活

「また地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者は目をさますでしょう。そのうち永遠の生命にいたる者もあり、また恥と、限りなき恥辱をうける者もあるでしょう。」（ダニエル 12:2）

神がご自身の民を救おうとされた時は真夜中だった。悪人たちが聖徒たちのまわりであざけっていると、突然光り輝く太陽が現れ、月は静止した。……暗い濃い雲があらわれて互いにぶつかり合った。しかし、一ところだけ栄光の輝く晴れ渡ったところがあって、そこから神のみ声が、流れの音のように、天地をふるわせて聞こえてきた。大地震が起こった。墓が開かれた。そして、第三天使の使命を信じ、安息日を守って死んだ人々が、栄化された姿で土の寝床から現れた。彼らは、神がご自身の律法を守った人々と結びたもう平和の契約を聞くのであった。（初代文集 460）

イエスにあって眠る人々は……栄光の不死を受けるために……閉じ込められていた墓から呼び出される。……彼（イエス）はよみがえられた。愛する友よ、あなたは落胆しているかもしれないが……イエスはあなたのそばにいて平安を与えてくださる。

わたしは自分が何について話しているのか、分かっている。波がわたしの上にかぶさったと思ったときを経験したことがある。その時に、わたしは救い主がわたしにとって尊い方であると感じた。長男がわたしから取り去られた時、自分の悲しみは非常に大きいとわたしは感じた。しかしイエスがわたしのそばにこられ、わたしは主の平安を魂に感じた。慰めの杯がわたしの唇にあてがわれた。

そしてそれから 36 年間わたしのそばに立っていた夫が……取り去られた。わたしたちは一緒に伝道の働きをしてきた。しかしわたしたちは戦士であった夫の手を組み合わせ無言の墓に休ませるため、彼を横たえなければならなかった。再びわたしの悲しみはとても大きいと思われたけれども、やはり慰めの杯が与えられた。イエスはわたしにとって尊い方である。主はわたしのそばを歩いて下さった。わたしたちの友が墓に下るときその人たちはわたしたちにとって麗しい。わたしたちが葬るのは父や母であるかもしれない。彼らが現われるときそのしわはみな消えるが姿はそのままであり、わたしたちにはその人が分かる。……

わたしたちは復活の朝、これらの親しい友人が現われるときに会える準備をしておきたいと思っている。……わたしたちは自分たちが主に似るものになる。そのまことのみ姿を見るからであるという福音の中で、わたしたちの前におかれている希望を自分でしっかりつかもうではないか。（天国で 353）

研究 27

三重のメッセージ

もうひとりの御使のメッセージ Part 6

後の雨のために準備する

「地上における神のみわざが閉ざされる終末の時には、聖霊の導きにより、献身した信徒たちのささげる熱心な努力に、神の恵みの特別なしるしが伴うのは事実である。種まき時と、収穫のころに東方の国々に降る前の雨、後の雨という比喩を用いて、ヘブルの預言者たちは、神の教会に異常なほど豊かに霊的恵みがさずけられることを預言した。使徒の時代の聖霊の降下は前の雨、またはさきの雨の始まりであった。そして、その結果はすばらしかった。終わりの時まで聖霊はまことの教会に臨在するのである。

地上の収穫が終わりに近くなると、教会を人の子イエスの来臨に備えるために、霊的な恵みが特別に与えられると約束されている。この聖霊の降下は後の雨にたとえられている。クリスチャンは『春の雨の時』にこの特別な力を収穫の主に求めなければならない。これに応えて『主はいなずまを造り、大雨を人々に賜い』、『豊かに雨を降らせ、……秋の雨と春の雨とを降らせられる』(ゼカリヤ書 10:1, ヨエル書 2:23)。

しかし、今日、神の教会の信徒たちは、すべての霊的成長の源であられる神との生きたつながりを持っていなければ、刈り入れの時に備えていることにならないであろう。彼らは絶えずランプの芯を切りそろえて、燃やしていなければ、いざというときに特別の恵みにあずかることができない。

恵みを絶えず新たに受けている者たちだけが、日常の必要に応じて、また力を用いる彼らの能力に応じて、力を受けるであろう。将来霊的な力が特別に賦

与されて、やがて救霊のために驚異的な装備を受ける時が来るのを待ち望むのではなく、彼らは、神の御用にふさわしい器としていただくために、日ごとに神に従っている。彼らは手の届く範囲にある奉仕の機会を毎日利用している。家庭の地味な仕事をしていても、あるいは、有用な社会の職場にいても、どこででも彼らは主のためにあかしを立てている。

キリストでさえこの地上でのご生涯に、毎日必要な恵みを神に求められたということは、献身的な働き人にとって、すばらしい慰めである。神とのこの交わりから、イエスは力を受けて、人々を力づけ、祝福するために出て行かれた。神のみ子が父の前にこうべをたれて祈っておられる姿を見よ。イエスは、神のみ子であったが、祈りを通してご自分の信仰を強め、天との交わりによって、悪に抵抗し、人類の必要に奉仕する力をお受けになった。人類の長兄としてキリストは、弱さに取りまかれ、罪と誘惑の世に住みながらなお、主に仕えたいと望む者たちの必要をごぞんじである。また、主がつかわすにふさわしいと思っておられる使者たちが、弱く過ちをおかしやすい人間であることもごぞんじである。しかし主の働きに全く献身するすべての人に、主は神からの援助を約束しておられる。神に頼りきって、みわざに惜しみなく献身する信仰、この信仰をもって神に熱心に、忍耐強く懇願すれば、罪との戦いにおいて聖霊の助けを必ず受けることができる。このことを主ご自身の模範は保証している。

キリストの模範に従う働き人はみな、地上の収穫物を実らせるために神が教会に約束された力を受け、これを用いるために備えをする。朝ごとに福音の使者が主の前にひざまずいて、献身の誓いを新たにするとき、神は信仰を覚醒させ、きよめる力をもった聖霊の臨在をお与えになる。日々の勤めに出かけるとき、彼らは見えない聖霊の力によって『神と共に働く者たち』となることができるという保証を受けるのである。」(患難から栄光へ上巻 51-53)

わたしたちの願いと信仰の量に比例して

「わたしは彼らおよびわが山の周囲の所々を祝福し、季節にしたがって雨を降らす。これは祝福の雨となる。」(エゼキエル 34:26)

「わたしたちが受ける聖霊の量は、わたしたちがそのために働かせる願いと信仰の量、またわたしたちが与えられる光と知識を用いる量に比例している。」(ﾚﾋﾞ

ｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1896 年 5 月 5 日）

「わたしたちはしきりに聖霊の賜物を求めて、主に切に訴えてせがもうとしない。主はこのことにおいてわたしたちがご自分にしきりに請い求めることを望んでおられる。このお方はわたしたちがみ座に嘆願して押し迫るようにと望んでおられるのである。」（クリスチャン教育の基礎 537）

「地上に神の最後のさばきが下るに先だって、主の民の間に、使徒時代以来かつて見られなかったような初代の敬虔のリバイバルが起きる。神の霊と力が神の子供たちの上に注がれる。」（各時代の大争闘下巻 190）

「福音の開始にあたって、貴重な種を発芽させるために、聖霊が注がれて『前の雨』が与えられたように、その終わりにおいて、収穫を実らせるために、『後の雨』が与えられるのである。」（各時代の大争闘下巻 382）

その時に

「『悩みの時の開始』とここに言われているのは、災害が降り始めるときのことではなくて、キリストがまだ聖所におられて、災害がくだり始める直前の短い期間をさしている。救いの働きが終了しつつあるその時、地上には悩みが起こり、諸国民は怒り狂うが、第三天使の働きを妨げないように、まだ抑制されている。その時に、『後の雨』、すなわち、主のみ前から慰めの時がきて、第三天使の大きな声に力をそえる。そして、最後の七つの災害がくだるときに、聖徒たちが立つことができるように準備を与える。」（初代文集 173）

「わたしは、武具をまとった人々が力強く真理を語るのを聞いた。それは効果的であった。……わたしは、何がこのような大きな変化をもたらしたのかをたずねた。『それは後の雨、主のみ前からの慰め、第三天使の大いなる叫びである』と天使は言った。」（初代文集 440）

後の雨のために祈りなさい

「『あなたがたは春の雨（後の雨：英語訳）の時に、雨を主に請い求めよ。主はいなずまを造り、大雨を人々に……賜わる』。『あなたがたのために豊かに雨を降らせ、……秋の雨と春の雨とを降らせられる』。東洋では前の雨は種まきのとき

に降る。種が発芽するためにそれが必要なのである。発芽させる雨の感化力の下で、やわらかい新芽が出てくる。後の雨は、季節の終わりに近くに降り、穀物を実らせ、刈り入れの準備をさせる。主はこれらの自然の営みを聖霊の働きを表すのにお用いになった。露と雨が初めに種を発芽させ、後に収穫を実らせるために与えられるのと同様に、聖霊はある段階から次の段階へと霊的な成長を前進させるために与えられるのである。穀物の実りは、魂のうちになされる神の恵みの働きが完成することを表している。聖霊の力によって、神の道徳的なみかたちが品性のうちに完全にあらわれるのである。わたしたちはキリストに似た姿に、あますことなく変えられなければならない。

地の穀物を実らせる後の雨は、教会を人の子の来臨に備えさせる霊的な恵みを表している。しかし、前の雨が降らないかぎり命はなく、緑の葉が出てくることはない。前の雨がその働きを成し遂げないかぎり、後の雨は種を完全にすることはできないのである。

『初めに芽、つぎに穂、つぎに穂の中に豊かな実ができ』なければならない。クリスチャンの徳の継続的な発達、クリスチャン経験における継続的な前進がなくてはならない。わたしたちは熱烈な願いをもってこれを求めるべきである。それはわたしたちの救い主キリストの教理をわたしたちが身にまとうことができるためである。

多くの人々が大いに前の雨を受けることに失敗している。彼らは神が前の雨によって自分たちに備えてくださった恩益をまったく受けてこなかった。彼らは欠乏が後の雨によって埋め合わされることを期待している。最も豊かで満ち満ちた恵みが与えられるときに、彼らは自分たちの心を開いてそれを受けようと思っている。彼らは恐ろしい間違いを犯しているのである。神の光と知識を与えて人の心のうちに始められた神の働きは、絶えず前進しなければならない。一人ひとり各個人は自分自身の必要を自覚しなければならない。心はあらゆる汚れを除いて空にされ、聖霊にやどっていただくために清められなければならない。初期の弟子たちがペンテコステの日に聖霊の降下に備えたのは、罪を告白し、捨てることによってであり、また熱心な祈りと神への献身によってであった。同じ働きが、ただもっと大きな規模で、今なされなければならない。そのとき人間はただ祝福を求め、自分に関する働きを主が完成してくださるのを待たなければならない。働きを始められたのは神であり、そしてこのお方がイエス・キリストのうちに人を完全な者

とすることによって、ご自分の働きを成し遂げられるのである。しかしここで前の雨によって表されている恵みを無視してはならない。自分たちが受けてきた光にしたがって生きる人々だけがより大きな光を受けるのである。わたしたちが生きたクリスチャンの徳を例証することにおいて日ごとに前進するのでないかぎり、わたしたちが後の雨における聖霊の表れを認めることはない。それはわたしたちの周囲のすべての人の心に下るかもしれないが、わたしたちはそれを見分けることも受けることもないのである。

わたしたちは経験のどの時点においても、最初にスタートを切ることを可能にした援助なしには何もできない。前の雨の下で受けた祝福は、わたしたちにとって終わりまで必要なものである。しかし、これらの祝福だけでは十分ではない。わたしたちは前の雨の祝福を大事にする一方で、豊かに実をならせ穀物を実らせる後の雨なしには、収穫は刈り入れのための準備ができず、種まきの働きは徒労に終わるのだという事実を見落としてはならない。神の恵みは初めに必要とされており、神の恵みは前進する一歩ごとに必要とされている。そして神の恵みだけが働きを完成させることができるのである。わたしたちには不注意な態度で休止するような場所はどこにもない。わたしたちはキリストの「目をさまして祈っていなさい」、「絶えず目をさまして祈っていなさい」という警告を決して忘れてはならない。神の代理者と毎瞬間つながっていることがわたしたちの進歩に不可欠である。わたしたちはこれまでにある程度の聖霊を受けていたかもしれないが、祈りと信仰によって、わたしたちはさらに聖霊を求め続けるべきである。それは決してわたしたちの努力をやめてしまうためではない。もしわたしたちが進歩しないならば、またもしわたしたちが前の雨と後の雨の両方を受けようとする態度でいなければ、わたしたちは自分たちの魂を失い、その責任は自分たち自身の門口にあるのである。

『あなたがたは春の雨（後の雨：英語訳）の時に、雨を主に請い求めよ』。当たり前に季節がめぐれば、雨が降るだろうといって満足して安んじてはならない。それを求めなさい。種の成長と完成とは農夫にかかっているのではない。神だけが収穫を実らせることがおできになるのである。しかし、人間の協力が必要とされている。わたしたちのための神の働きは、わたしたちの思いを活動させ、わたしたちの信仰を働かせることを要求している。わたしたちは恵みの雨がわたしたちにもたらされることを願うならば、心を尽くしてこのお方の恩寵を求めなければな

らない。わたしたちは祝福の経路の中に自らの身をおくすべての機会を生かすべきである。キリストは次のように仰せになった、『ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである』。キャンプミーティングや、家庭教会の集まり、また魂のために個人的な働きがなされるすべての機会における教会の集会は、神が前の雨と後の雨をお与えになるためにお定めになった機会である。

しかしだれ一人として、このような集会に参加すれば自分たちの義務を果たしたのだと思ってはならない。単に開催されるこれらの集会に参加するだけで、魂に祝福がもたらされることはない。総会でも地方の集会でも参加する人はだれでも天からの大きな供給を受けるというのが不変の法則なのではない。恵みの雨の豊かな注ぎを受けるのに、好ましい環境であるように思えるかもしれない。しかし神ご自身が、雨が降るようにとお命じになるのである。であるから、わたしたちは嘆願するのに怠慢であってはならない。わたしたちはみ摂理の普通の働きに頼ってはならない。神が命の水の泉の封印を解いてくださるようにと祈らなければならない。そしてわたしたち自身、生きた水を受けなければならない。悔いた心で熱心に、今、この後の雨の時に、恵みの雨がわたしたちに下るようにと祈ろうではないか。わたしたちが出席するすべての集会において、まさに今この時に神がわたしたちの魂に暖まりと潤いを与えてくださるようにとの祈りが上るべきである。わたしたちが聖霊を賜るように神に求めるとき、それはわたしたちのうちに柔和と思いのへりくだりを生じさせ、また完成させる後の雨のために神に依存していることを自覚させる。もしわたしたちが信仰のうちに祝福を祈り求めるならば、わたしたちは神が約束なさったとおりにそれを受けるのである。

聖霊が教会に絶えず伝達されていることが預言者ゼカリヤによって別の象徴の中で表されている。それはわたしたちを励ますすばらしい教訓を含んでいる。預言者は次のように語っている、『わたしと語った天の使がまた来て、わたしを呼びさました。わたしは眠りから呼びさまされた人のようであった。彼がわたしに向かって「何を見るか」と言ったので、わたしは言った、「わたしが見ていると、すべて金で造られた燭台が一つあって、その上に油を入れる器があり、また燭台の上に七つのともしび皿があり、そのともしび皿は燭台の上にあって、これにおのおの七本ずつの管があります。また燭台のかたわらに、オリブの木が二本あって、一本は油をいれる器の右にあり、一本はその左にあります」。わたしはまたわたし

と語る天の使に言った、「わが主よ、これらはなんですか」。わたしと語る天の使は答えて、……わたしに言った、「ゼルバベルに、主がお告げになる言葉はこれです。万軍の主は仰せられる、これは権勢によらず、能力によらず、わたしの霊によるのである。……わたしはまた彼に尋ねて、「燭台の左右にある、この二本のオリブの木はなんですか」と言い、重ねてまた「この二本の金の管によって、油をそれから注ぎ出すオリブの二枝はなんですか」と言うと、……すると彼は言った、「これらはふたりの油そそがれた者で、全地の主のかたわらに立つ者です」。』

二本のオリブの木から、金の油が金の管を通って燭台の油を入れる器へと流れ込み、そこから聖所に光を投じる金のともしび皿へと流れ込んでいた。同様に神のみ前にたつ聖なる者たちから、神のご奉仕に献身している人間の器に神のみ霊が与えられる。二人の油注がれた者の任務は、光と力を神の民に伝達することである。彼らが神のみ前に立っているのは、わたしたちのために祝福を受けるためである。オリブの木が自ら金の管へと注ぎ出しているように、天の使命者たちも彼らが神から受けたすべてのものを伝達しようと求めている。全天の宝はわたしたちが要求し、受けるのを待っている。そしてわたしたちが祝福を受けるとき、今度はわたしたちがそれを与えるべきである。こうして聖なるともしびは給油されて、教会が世において光を担うようになるのである。

これがこの時代、すなわち四人の天使が四方の風を引きとめ、神の僕たちがその額に印を受けてしまうまでは吹くことがないようにしているこの時代に、主がすべての魂にそれをなす準備をしてほしいと望んでおられる働きである。今や自分を喜ばせている時間はない。魂のともしびはランプの芯が切りそろえられていなければならない。彼らは恵みの油が供給されなければならない。主の大いなる日がわたしたちに夜中の盗人のように突然訪れることがないように、霊的な退化を防ぐためのあらゆる予防措置が取られなければならない。神のための証人は皆、いま神が定めてこられた分野で知的に働くべきときである。わたしたちは、クリスチャン品性を完全にするという働きにおいて、日ごとに深くて生きた体験を自分のものとすべきである。わたしたちは、他人に与えることができるように、日ごとに聖なる油を受けるべきである。すべての人は、望みさえすれば世に対して光を担う者となることができる。わたしたちはイエスのうちに自分を沈めて見えなくすべきである。わたしたちは勧告と教えのうちに主の言葉を受け、それを喜んで伝達すべきである。今は祈りが大いに必要とされている。キリストは『絶えず祈りなさい』

とお命じになったが、これは思いを絶えず、あらゆる力と能力の源であられる神の許へ上げなさい、という意味である。

わたしたちは長い間狭い道に従ってきたかもしれない。しかし、わたしたちがこれをもって最後までその道に従う保証とするのは安全ではない。もしわたしたちが聖霊の交わりのうちに神と共に歩んできたとすれば、それはわたしたちが日ごとに信仰によってこのお方を求めてきたからである。二本のオリブの木から金の管を通って金の油が流れ、わたしたちに伝達されてきた。しかし、祈りの精神と習慣を培っていない人々は、善、忍耐、寛容、優しさ、愛という金の油を受けることを期待はできない。

すべての人が悪に満ちた世から分離しているべきである。わたしたちは一時神と共に歩んでは、その後このお方のかたわらを離れて自分自身のたいまつの火花のうちを歩むようなことがあってはならない。確固とした継続、信仰の行いにおける辛抱強さがなくてはならない。わたしたちは神を讃美すべきである。義なる品性のうちにこのお方の栄光を示すべきである。わたしたちのうちだれ一人として、自分たちが求めている永遠の命という目的の価値に見合った辛抱強くうむことのない努力なしに勝利を得ることはない。

わたしたちがいま生存している時代は、求める人々にとっては、聖霊の時代となるのである。このお方の祝福を求めなさい。今はわたしたちが自分たちの献身においてもっと熱心になるべき時である。わたしたちには、闇の中にいる人々にキリストを表すという、苦労は多いが幸せで栄光に満ちた働きが委ねられている。わたしたちはこの時代のための特別な真理を宣布するように要求されている。これらすべてのために聖霊の注ぎが不可欠である。わたしたちはそのために祈るべきである。主はわたしたちがご自分に求めることを期待しておられる。わたしたちはこの働きに心を尽くしてこなかった。わたしは主のみ名によって、わが兄弟たちに何と言えばよいであろうか。主が喜んで与えてこられた光に対して、どの程度の努力をなしてきたであろう。わたしたちは形式や外面の機構に頼ることはできない。わたしたちに必要なのは、神の聖霊の生き返らせる感化力である。『万軍の主は仰せられる、これは権勢によらず、能力によらず、わたしの霊によるのである』。やめることなく絶えず祈り、あなたの祈りに見合った働きによって目覚めていなさい。あなたが祈るとき、神を信じ、信頼しなさい。今は、後の雨の時であって、主がご自分の聖霊を大いに賜わる時である。祈りにおいて熱心でありなさい、そ

してみ霊のうちに目覚めていなさい。」（牧師への証 506-512）

第三天使の栄光に満ちた働きに参加する準備ができているであろうか

「後の雨は神の民に下るのである。力強い天使が天から下ってきて、全地はその栄光で明るくされる。わたしたちは第三天使の栄光に満ちた働きに参加する準備ができているであろうか。わたしたちの器は天の露を受ける準備ができているであろうか。わたしたちの心に汚れと罪はないであろうか。もしあるならば、魂の宮を清め、後の雨を受けるために準備しようではないか。主のみ前からくる慰め(活気づけ：英文の意）が、不純物で満ちている心に届くことは決してない。神がわたしたちを助けてくださって、自己に死ぬことができるように、そして栄光の望みであるキリストがわたしたちのうちにかたちづくられるように！」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1891 年 4 月 21 日）

(52 ページの続き)

した。(これらの実話のくわしいことは、創世記 37:1-11, 42:3-20; 40:1-22; 41:1-36 にあります)。

聖書はまた、この賜物が与えられたもうひとりの青年ダニエルのことについてものべています。ダニエル 2 章と 7 章には、おどろくべき方法で、この青年がこの世の将来を見たことが書かれています。

このような賜物がさしだす祝福(しゅくふく)を知っていて、この種(しゅ)の能力(のうりょく)があると主張(しゅちょう)しようとする人々が多くいます。しかし、彼らは、本当に神さまに奉仕(を捧げるためではなく、自分自身の誇(ほこ)りや栄光(えいこう)のためにそれをほしがります。ときには、彼らが自慢(じまん)する能力は、サタンからくることさえあるのです。今日、これらの人々は、「占い師(うらないし)」とか、「霊能者(れいのうしゃ)」とか言われたり、あるいはそのほかべつの多くの呼び方をされています。

神さまはこうしたことがおこることをみなご存じでしたので、申命記 13:1-5 や 18:19-22 で、偽預言者をみぬくことができなければならないとわたしたちに警告(けいこく)して下さったのです。また申命記 18:10-12 やイザヤ 47:8-15 には、占(うらな)いをする者、卜者(ぼくしゃ)、易者(えきしゃ)、魔法使(まほうつかい)、呪文(じゅもん)を唱(とな)える者、またすべて自分が死人(しにん)と話すことができると考えている者に対して、深刻な警告が与えられています。神さまからとおく離(はな)れた人だけがこのようなにせものの助言(じょげん)を求めようとします。わたしたちは「律法(りっぽう)と証(あかし)とに求めなさい。もし彼らがこの言葉(聖書)によって語らないならば、それは彼らのうちに光がないからである」と教えられています(イザヤ 8:20 英語訳)。

そのかわりに、わたしたちは真の預言者であるという聖書的(せいしょてき)なテストにすべて合格(ごうかく)した本物の預言者からのみ将来について学ぶべきです。「あなたがたの神、主を信じなさい。そうすればあなたがたは堅(かた)く立つことができる。主の預言者を信じなさい。そうすればあなたがたは成功(せいこう)するでしょう」(歴代志下 20:20)。

神さまがわたしたちを助けてくださって、わたしたちが選択(せんたく:えらび)をするときに、忠実(ちゅうじつ)でありますように。そうすればわたしたちは祝福を受けます!

きゅうりのキムチ（オイキムチ）

◎材料◎

きゅうり	10 本
にら（1.5cm）	1 束
たまねぎ（薄スライス 1.5cm）	1/2 個
人参（細切り）	1/2 本
にんにく（すりおろし）	2 片
しょうが（すりおろし）	1 片（適量）
塩	大さじ 4
しょう油	大さじ 1
黒砂糖	大さじ 2
昆布粉末だし	少々
とうがらし（5mm）	お好みで

◎作り方◎

1. きゅうりの両はじを切り落とし、三等分(すべて同じ大きさ) にします。
2. たてに、はし 7-8 ミリを残して、4 つから 6 つの切り目を入れます。
3. 塩を入れてよくまぜ、そのままねかせます。
4. 2 時間ほどしたら、にら、にんにく、たまねぎ、人参、しょう油、黒砂糖、昆布粉末だし、とうがらしをボールに入れて、よく混ぜます。
5. しんなりしたきゅうりの切り目の間に、4. の具をはさみ、はさんだ後に、手でギュッとしめます。
6. それをお皿に並べて、できあがり。冷蔵庫に入れておけば、2、3 日食べられます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校：9:30-10:45（公開放送）

礼拝説教：11:00-12:00（公開放送）

午後の聖書研究：14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先：〒 350-1391　埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係

是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。

【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。

先になにがあるかを見る

人々はいつも将来（しょうらい）について関心があります。だって、なにかが起こる前にそれがわかったら、助かるのではないでしょうか？天におられるあわれみぶかい愛の神様が、「まことに主なる神はそのしもべである預言者（よげんしゃ）にその隠（かく）れた事を示（しめ）さないでは、何事（なにごと）をもなされない」と言われることは、とても感謝ですね（アモス 3:7）。わたしたちはここで、重要な秘密（ひみつ）が神さまのしもべたちにあらわされることがわかります。このお方の預言者たちは、このお方に仕（つか）える人々でなければならないのです。つまり、彼らは、利己心（りこしん）のためではなく、このお方に従（したが）い、このお方のために生きるのです。

たとえば、聖書は、子どものころから神さまに仕えた忠実な青年ヨセフのことについて教えています。主は彼にわたしたちのほとんどの人は持っていないとくべつな賜物（たまもの）をお与えになりました。ヨセフは将来を示す夢を見て、その預言的な夢を他の人々にときあかすことができま

（49 ページに続く）